

令和5年度 事業報告

令和5年6月の総会において代議員の方々の推挙により高橋新執行部が誕生し、「会員の皆さんとすばらしいハーモニーを奏でるオーケストラのような都薬に」を目指して、事業を進めてきました。

今般、厚生労働省における第8次医療計画の救急・災害医療の見直しにおいて、都道府県の保健医療福祉調整本部等の構成員として「災害薬事コーディネーター」が明記されました。本会では、これまでの災害時における薬剤師の活動の中から様々な問題点を洗い出し、どのような状況が評価されたのかを分析し、関係諸団体と連携して災害対応力向上事業における「災害時薬事活動リーダー研修」のさらなる充実を図ります。

また、令和4年12月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)が改正され、感染症発生・まん延時に、迅速かつ的確に医療提供体制を確保するため、医療提供の分担・確保に係る協定を締結することとされ、いわゆる「医療措置協定」が令和6年4月から施行されることとなりました。東京都薬剤師会会員の薬局は、3月31日現在、2,546件が東京都との協定締結を完了しております。

大規模接種会場におけるワクチンの取扱等の巡回視察については、令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、無料接種が令和6年3月で終了したことにより、同3月末をもって終了いたしました。これからも様々な場面や状況において、東京都からの要請については、専門的見地をもって積極的に対応していきます。

(公社)薬剤師認定制度認証機構より、研修認定機関として認証された(認証番号:G26)生涯研修認定制度については、都薬会員の先生方のみならず、全国の薬剤師から認定申請を頂戴しております。今後も、さらに判りやすく利用しやすい制度となるよう改善に努めてまいります。

また、都薬 e-ラーニングシステム「t-MYLS」を公開し、多くの先生方が東京都薬剤師会の研修認定単位を取得できるよう研修制度の充実を図りました。今後は、コンテンツの充実をさらに図り、切れ目の無い学習の機会を生涯研鑽に励まれる多くの薬剤師の方々に提供してまいります。

次世代薬剤師育成事業に関しましては、令和4年度の「学生の声を聴く会」の実施内容を踏まえ、より学生の意向を反映させた「薬剤師のリアルを聴いてみよう！」を開催し、学生とキャリアデザインや様々な分野に精通している薬剤師と意見交換を行いました。

令和5年度も、東京都薬剤師会は都民の地域医療に貢献している会員の皆様の一助となるべく以下の活動テーマに沿って、記載の事項に対応いたしました。

【活動テーマ】

未来を創る生涯学修に取り組もう
～見せよう「薬剤師」「地域薬局」の底力～

【重点項目】

- 都薬生涯研修認定制度の利便性の向上及び都薬生涯学修プログラムの拡充
- 災害時医療救護に係る「災害時薬事活動リーダー」(災害薬事コーディネーター)の養成
- 新興感染症対策を含めた、「新型インフルエンザ等対策」の推進
- 次世代薬剤師育成事業の実施
- 地域包括ケア(切れ目のない薬物療法の提供)に向けた薬・薬連携の推進
- 薬剤師資格証の取得に関する業務の推進及び対人業務の充実に向けた医療DX化への対応
- 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定取得に向けた支援

第1 一般会務報告

1. 会員数 6,643名(令和6年3月31日現在)

【資料1】

2. 会議等開催状況

(1) 総会(第103回通常総会、第104回臨時総会)	2回
(2) 総会議事運営委員会	4回
(3) 役員選挙管理委員会	1回
(4) 代議員選挙管理委員会	2回
(5) 日本薬剤師会東京ブロック代議員打合せ会	2回
(6) 「都薬功労賞」授賞者選考委員会	1回
(7) 令和5年度都薬功労賞授賞式	1回
(8) 賀詞交歓会(令和5年度各賞受賞者祝賀会)	1回
(9) 地区及び職域薬剤師会会長会	11回
(10) 業界紙(誌)共同取材・定例記者会見	10回
(11) 理事会	24回
(12) 会長・業務執行理事打合せ	24回
(13) 正副会長打合せ会	8回
(14) 担当役員会	31回
(15) 常置委員会(小委員会含む)	87回
(16) 特別委員会(小委員会含む)	4回
(17) 監事監査会	4回
(18) 顧問・相談役会	2回
(19) 東京都三師会	1回
(20) 東京都病院薬剤師会との役員懇談会	1回
(21) 臺北市薬師公會学术交流会	1回
(22) 薬剤師のリアルを聴いてみよう	2回
(23) 薬事衛生自治指導員全体講習会	1回
(24) 薬学講習会	1回
(25) 基準薬局中央研修会	1回
(26) かかりつけ薬剤師研修会	1回
(27) 薬局業務研修会	1回
(28) 臨床薬学講座	2回
(29) 登録販売者研修会	3回
(30) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会	1回
(31) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会	1回

(32) 「実務実習受入薬局」伝達講習会	1回
(33) 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	1回
(34) 薬局実務実習受入に関する関東地区ブロック会議	1回
(35) 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	2回
(36) 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会	2回
(37) 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会	2回
(38) 認定実務実習指導薬剤師ためのアドバンスワークショップ	1回
(39) より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ	5回
(40) 学校薬剤師東京ブロック連絡会議	1回
(41) 学校薬剤師研修会	1回
(42) 公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	1回
(43) アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会	1回
(44) 禁煙支援薬剤師認定審査会	2回
(45) 無菌調製技能習得研修会(講義・実習)	3回
(46) 無菌調製技能習得研修会「ステップアップ研修」	1回
(47) 東京都・東村山市合同総合防災訓練	1回
(48) 災害時薬事活動リーダー研修	2回
(49) 関東・東京エリア災害対策連絡会	1回
(50) 在宅療養多職種連携研修会	1回
(51) 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業	
地区担当者会議	1回
(52) 在宅訪問ステップアップ研修会	3回
(53) 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会	1回
(54) 医療保険指導者養成講座	2回
(55) 重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業に係る説明会	1回
(56) 医療保険地区指導者講習会	1回
(57) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会A》	1回
(58) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会B》	1回
(59) 直扱会員を対象とした「都薬アワー」	1回
(60) 「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	6回
(61) 東京都薬剤師認知症対応力向上研修	2回
(62) がん薬物療法の服薬支援のための研修会	1回
(63) 漢方Web講座	5回
(64) 「薬剤師生涯研修認定制度」に関する意見交換会	1回
(65) 薬剤師生涯研修企画運営委員会(WG含む)	5回
(66) 生涯学修関連会議	20回

3. 役員の公的機関等への参画

【東京都 関連】

- 東京都医療審議会 : 高橋会長
東京都薬事審議会 : 高橋会長
東京都国民健康保険運営協議会 : 高橋会長
東京都感染症医療体制協議会 : 高橋会長
東京都医療費適正化計画検討委員会 : 高橋会長
東京都子供応援協議会委員 : 高橋会長
東京都エイズ専門家会議 : 一瀬副会長
東京都在宅療養推進会議 : 高松副会長
東京都特殊疾病対策協議会 在宅療養・医療連携支援対策部会 : 高松副会長
東京都後発医薬品安心使用促進協議会 : 宮川副会長
東京都保健医療計画推進協議会 : 宮川副会長
東京都保健医療計画推進協議会 改定部会 : 宮川副会長
東京都地域医療構想調整部会 : 宮川副会長
東京都感染症対策連携協議会 : 宮川副会長
東京都子供応援協議会幹事 : 小野副会長
自殺総合対策東京会議 : 犬伏常務理事
東京都高齢者保健福祉施策推進委員会 : 犬伏常務理事
東京都糖尿病医療連携協議会 : 犬伏常務理事
東京都災害医療協議会 : 貞松常務理事
東京都感染症対策連携協議会 予防計画協議部会 : 貞松常務理事
東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議 : 田極常務理事
外国人患者への医療等に関する協議会 : 根本常務理事
東京都大気汚染医療費助成検討委員会 : 根本常務理事
救急医療対策協議会 : 根本常務理事
オンライン服薬指導動画作成検討委員会 : 根本常務理事
東京都立東大和療育センター運営協議会 : 根本常務理事
東京都立墨東病院運営協議会 : 濱野常務理事
東京都立東部療育センター運営協議会 : 濱野常務理事
東京都がん対策推進協議会 : 松本常務理事
東京都がん対策推進協議会「がん計画推進部会」及び「緩和ケアワーキンググループ」
: 松本常務理事
東京都難病対策地域協議会 : 松本常務理事
東京都健康推進プラン21(第二次)推進会議 : 和田常務理事
東京都障害者差別解消支援地域協議会 : 和田常務理事

東京都結核対策技術委員会 : 和田常務理事
東部地域病院運営協議会 : 和田常務理事
東京都がん対策推進協議会「予防・早期発見・教育ワーキンググループ」
: 會田理事
東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会) : 小林理事
東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議 : 三溝理事
東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議災害精神科医療体制作業部会
: 三溝理事
精神疾患地域医療連携協議会 : 篠原理事
医療情報に関する理解促進委員会 : 篠原理事
東京都医療安全推進協議会 : 篠原理事
東京都アレルギー疾患対策検討委員会 : 町田理事
東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会
: 町田理事

【関連団体】

関東信越地方社会保険医療協議会臨時委員 : 高橋会長
社会保険診療報酬支払基金東京支部幹事会参与 : 高橋会長
東京都区西部緩和ケア推進事業運営委員会 : 高松副会長
東京都保険者協議会 : 宮川副会長
卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業 実施法人選定審査委員会
: 小野副会長
東京都医師会 タバコ対策委員会 : 小野副会長
東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議 : 犬伏常務理事
OTC 医薬品普及啓発イベント
「よく知って正しく使おう OTC 医薬品」実行委員会 : 犬伏常務理事
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 : 田極常務理事
東京都後期高齢者医療広域連合運営会議 : 根本常務理事
地方独立行政法人東京都立病院機構有識者会議 : 濱野常務理事
東京都医師会 東京都多職種連携連絡会 : 會田理事
東京都医師会 地域包括ケア委員会 : 伊藤理事

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知と遵守の徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底を図るため、薬機法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

患者や地域住民の医薬品の適正使用のみならず、公衆衛生の向上及び健康な生活の確保のための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に、平成12年度以来毎年「かかりつけ薬剤師研修会(平成28年度までの研修会名称は「かかりつけ薬局研修会」)を開催している。

【かかりつけ薬剤師研修会】(旧 かかりつけ薬局研修会)

令和5年度当会の各種研修会は、「未来を創る生涯学修に取り組もう～見せよう「薬剤師」「地域薬局」の底力～」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

開催日時：令和5年11月19日(日) 12:30～16:00

開催方法：集合・配信ハイブリッド開催(会場：一橋大学一橋講堂)

受講者：会場193名(内、会員165名)、配信852名(内、会員695名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 虚血性心疾患の病態・治療・予防 薬剤師の先生にも知っておいて欲しいポイント

東京都済生会中央病院 循環器内科 医長 長谷川 祐

3. 虚血性心疾患患者の薬物療法に求められること、求めること ～病院薬剤師の立場から～

日本赤十字社医療センター 薬剤部 薬物治療管理課

内科系薬物治療管理係長・心不全療養指導士 奥津 雄人

4. 保険薬剤師による循環器疾患患者へのアプローチ

江東とよす薬局 薬剤師・循環器病予防療養指導士 浅田 由佳

5. パネルディスカッション

進行：生涯学習委員会委員長 笠原 徳子

同副委員長 高島 啓輔

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成23年10月より、eラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、令和6年3月末時点で553名の受講申込があった。また、令和5年8月に第22回、令和6年2月に第23回認定審査会を開催した。これまでに禁煙支援薬剤師として計197名を認定した。

(3) 都薬生涯学修プログラムの拡充

地域包括ケアシステムにおける地域住民や薬物治療を実施する来局者に対して、健康維持に係る有効なアドバイスと薬物治療における様々な問題点に対する的確な支援を実施し、地域で信頼され「かかりつけ薬剤師」の評価を受けられる薬剤師の養成を行うために、基礎から先進的な治療にわたる系統的な知識を修得する機会として研修会等の開催とeラーニングコンテンツの充実を図った。

昨年度に引き続き、令和5年度も本会が開催する主要な研修会等において、特に広範かつ継続的な医療の提供が必要とされる医療計画における5疾病をテーマに取り上げて開催を企画した。令和5年7月23日に開催した基準薬局中央研修会では脳卒中をテーマに開催を企画し、薬物治療だけでなく栄養指導も含めた内容で講演を行った。令和5年8月27日に開催した薬学講習会では精神疾患をテーマに取り上げ、精神疾患全般の病態だけでなく、薬局での薬学的管理に必要な内容を修得できるよう講演を行った。令和5年11月19日のかかりつけ薬剤師研修会では過去に開催した心不全や不整脈と合わせて心血管疾患の知識を更に修得できるよう虚血性心疾患をテーマに講演を行った。

また、薬剤師の生涯研鑽に資するため、昨年度より開発を進めていた学習支援システム「t-MYLS (t-マイルス)」(Tokyo pharmaceutical association - MY Lifelong learning System) については、令和5年8月4日に、17コンテンツを公開し運用を開始した。コンテンツの公開に当たっては医療計画における5疾病と呼吸器疾患についてのシラバスをまず初めに作成し、その学習計画に沿って実際に開催した研修会等の講演内容をeラーニング用コンテンツに再編成し、実務の内容を修得できるコンテンツと、その実務の基礎となる知識を修得できるコンテンツを系統立て、本会生涯学修プログラムの学習領域を意識して生涯研鑽に励めるように対応した。今後も疾患数を増やしてシラバスを作成し、更なるコンテンツの拡充を行い、生涯学修プログラムの推進を行っていく。

なお、都薬ホームページでは、禁煙支援薬剤師認定制度（2-1（2）「禁煙支援薬剤師認定制度」の項を参照）に続く生涯学習プログラムとして、平成27年から「認知症サポート薬剤師eラーニング講座」を公開している。また、eラーニング講座を受講した方を対象として、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標としたスクーリングをこれまでに6回実施している。

その他、令和5年度の生涯研修プログラムの一環として、株式会社ツムラとの共催により、漢方Web講座（全3回）をWeb（Zoomウェビナー）配信した。

【2023 漢方Web講座 第1回】

開催日時：令和5年10月29日（日） 9:30～11:10

受講者：68名

内容：「ズバリ！女性の不定愁訴を漢方で考える『めまい・メンタル・月経不順』」

講師：株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

【2023 漢方Web講座 第2回（その1）】

開催日時：令和5年12月17日（日） 9:30～11:10

受講者：60名

内容：「もう困らない！がんサポーターケアに「漢方薬」を使用するコツ
『食欲不振（体力低下）・微熱・便秘・しびれ』」

講師：株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

【2023 漢方Web講座 第2回（その2）】

開催日時：令和6年1月10日（水） 19:00～20:40

受講者：27名

内容：「もう困らない！がんサポーターケアに「漢方薬」を使用するコツ
『食欲不振（体力低下）・微熱・便秘・しびれ』」

講師：株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

※ システム障害のため同内容を改めてライブ配信

【2023 漢方Web講座 第3回（その1）】

開催日時：令和6年3月11日（月） 19:00～20:40

受講者：40名

内容：「実践！春の悩みに『漢方』で対応してみよう！
『花粉症・副鼻腔炎・めまい・メニエール』」

講師：株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

※ 代替開催（1回目）

【2023 漢方Web講座 第3回（その2）】

開催日時：令和6年3月17日(日) 9:30～11:10

受講者：38名

内容：「実践！春の悩みに『漢方』で対応してみよう！
『花粉症・副鼻腔炎・めまい・メニエール』」

講師：株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

※ 代替開催（2回目）

（4）都薬生涯研修認定制度及び日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

令和4年2月18日に、(公社)薬剤師認定制度認証機構の認証を取得した、本会生涯研修認定制度の利用促進に向けては、令和5年度に開催した第1回・第2回地区薬剤師研修会や本会が発行する都薬雑誌において、引き続き本会の生涯学習プログラムの概要を含め、同制度を活用することのメリット等について広く周知を行った。また、学術大会や研修会等で、本会に対して後援や共催の依頼がなされたものについては、当該研修認定制度について情報提供を行い、本会研修認定単位の活用を促した。

その結果、令和5年度には、本会が認定し研修単位を発行した研修会等が441回開催(内訳 1単位：354回、2単位：69回、3単位：16回、4単位：2回)され、合計21,171枚の研修単位(内訳 1単位：12,799枚、2単位：7,528枚、3単位：787枚、4単位：57枚)を配付する等、認定薬剤師の養成に貢献した。また、令和5年度に本会が認定した認定薬剤師は延べ518名(内訳 新規：181名、更新：337名)であった。

平成24年4月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成26年5月には、JPALSのポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等にJPALSコードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS利用者の利便を図るよう努めた。

（5）薬学講習会等各種講習会の開催

① 臨床薬学講座の開催

令和5年度の臨床薬学講座は、少人数による実習中心の研修会を2回開催した。

【第1回 臨床薬学講座】

開催日時：令和5年12月17日(日) 12:00～17:30

開催場所：昭和大学 旗の台キャンパス 2号館4階ラーニングコモンズ

受講者：22名(会員22名)

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔
2. <講義>

1) 薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの考え方と実践
東京医科大学 医学教育学分野・東京医科大学病院 総合診療科
准教授 原田 芳巳

2) 薬局薬剤師がフィジカルアセスメントを学ぶ意義
品川区薬剤師会 会長 加藤 肇

3. <実習>

1) 疾患シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント研修
昭和大学薬学部 薬学教育学講座 准教授 亀井 大輔、
昭和大学薬学部 薬学教育学講座 助教 丸山 剛、
昭和大学薬学部 臨床薬学講座 臨床栄養代謝学部門 助教 岡本 まとか

4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

【第2回 臨床薬学講座】

開催日時：令和6年3月3日(日) 13:00～17:20

開催場所：東京都薬剤師会館3階会議室

受講者：20名(会員18名)

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔

2. <講義>

1) 皮膚潰瘍治療の基礎知識～褥瘡を中心に～

NTT 東日本関東病院 皮膚科部長 出月 健夫

2) 創傷被覆材の選び方

NTT 東日本関東病院 WOC ナース(皮膚・排泄ケア認定看護師) 穴澤 智美

3. <実習>

1) 褥瘡のスキンケアと処置の実際について

NTT 東日本関東病院 WOC ナース(皮膚・排泄ケア認定看護師) 穴澤 智美
スミス・アンド・ネフュー株式会社

4. <総括>

1) 褥瘡治療における薬剤師の役割と総括

東京医科大学病院 薬剤部・褥瘡学会認定薬剤師 関根 祐介

5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

② 薬学講習会の開催

令和5年度は、精神疾患をテーマに薬学講習会を開催し、多数の会員の参加を得た。また、薬局における医療安全管理研修では、精神疾患の薬物療法と薬学的管理について講演が行われた。

【薬学講習会】

開催日時：令和5年8月27日(日) 13:00～16:35

開催場所：東京国際フォーラム ホールA

受講者：1,276名(内、会員1,064名)

内 容：

1. 挨拶
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 最近の薬務行政について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課長 中島 真弓
3. 精神疾患の病態と臨床症状
昭和大学医学部精神医学講座 教授・昭和大学附属烏山病院 病院長
岩波 明
4. 精神疾患の薬物療法と薬学的管理
昭和大学医学部精神医学講座 講師・昭和大学附属烏山病院 薬局
精神科専門薬剤師 永井 努

③ 令和5年度 基準薬局中央研修会の開催

今年度も、集合研修及びオンライン研修により、7月に基準薬局中央研修会を下記のとおり開催した。

【令和5年度 基準薬局中央研修会】

開催日時：令和5年7月23日(日) 12:30～16:10

開催場所：日経ホール

開催方法：集合研修及びオンライン研修

受講者：1,040名

- ・集合研修 258名(内、会員外10名)
- ・オンライン研修 782名(内、会員外24名)

内 容：

1. 挨拶
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 早期治療が鍵！ ～脳梗塞急性期の治療～
日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野 大学院教授 木村 和美
3. 脳卒中の栄養サポート
横浜市立大学附属市民総合医療センター 栄養部 係長 熊谷 直子
4. 基準薬局が地域連携薬局を目指すには
東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏
5. 東京都における認定薬局の状況 ～地域連携薬局に期待すること～

④ 東京都薬剤師認知症対応力向上研修の開催

認知症の早期発見や医療における認知症への対応力を高め、地域において薬局・薬剤師が認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的として、東京都の委託により開催している。今年度も昨年度に引き続きコロナ禍を考慮してオンライン開催とし、下記のとおり2回ライブ配信を実施した。

【令和5年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第1回】

開催日時：令和5年11月25日(土) 15:00～18:40

開催方法：ライブ配信（Zoom ウェビナー）

受講者：311名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部在宅支援課
認知症支援調整担当 課長代理 中島 有望
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 中島 謙司マクシミリアン

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること

～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

【令和5年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第2回】

開催日時：令和5年12月10日(日) 9:00～12:40

開催方法：ライブ配信（Zoom ウェビナー）

受講者：381名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部 認知症施策推進担当課長 小澤 耕平
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 中島 謙司マクシミリアン

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること

～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

(6) 認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実

薬学教育6年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設の確保及び学生を指導する指導者の資質向上が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持と質の高い実務実習の充実を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)をはじめとする種々の教育関連機関と連携して各種事業を遂行した。

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実した実施に向けて、学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education、以下「OBE」)に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)と、既に認定を取得した認定実務実習指導薬剤師を対象としたアドバンストワークショップを今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、安定した実務実習体制の維持を図るために、関東地区調整機構の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催計画に則り、下記のとおり「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を2回、「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ(以下、OBE 修得のためのアドバンストワークショップ)」1回を共催した。今年度も本会が事務局を担当したワークショップにおいては、実習時のトラブルを事前に回避することを目的に本会が作成したリーフレット「ハラスメントのない実務実習(2021年度改訂)」を配布した。

また、関東地区(調整機構単位)各県薬剤師会が事務局を担当した「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」(全8回)に、本会会員薬局から受講者11名(第2回1名、第3回1名、第5回2名、第10回1名、第11回2名、第12回2名、第13回1名、第14回1名)が参加した。これにより平成17年度(2005年度)より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への本会会員薬局からの総受講者数は今年度までに2,316名となった。

また、「OBE 修得のためのアドバンストワークショップ」への本会会員薬局からの参加者は、今年度までに848名となった。

(一社)薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定

実務実習指導薬剤師」の認定要件となる「認定実務実習指導薬剤師 養成講習会（講習会形式の研修講座①②③）」を下記のとおり実施した。また、更新を迎える認定実務実習指導薬剤師を対象とした「認定実務実習指導薬剤師 更新講習会（講習会形式の研修講座④）」を養成講習会と同日開催で下記のとおり実施した。

本会では、令和4年度に、より質の高い実務実習の実施に向け、指導に係る薬剤師全体のレベルアップを図るとともに地区の指導者を養成することを目的に、都内受入れ施設の認定実務実習指導薬剤師を対象とした「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ（以下、「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」と称す）（保健医療圏単位でグループ分けした全5回）を企画し、令和4年度内に実施できなかった2グループ（2回）について、今年度に下記の通り開催した。

今年度は、「令和4年度 より質の高い実務実習を目指すためのADWS」の内容を振り返り、参加・体験型実習を更に充実させ問題解決型の臨床実習を実施することを目的とした「令和5年度 より質の高い実務実習を目指すためのADWS」を、隣接する保健医療圏単位3グループに分けて、各地区薬剤師会の共催の下、下記のとおり開催した。

【第4回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和5年7月16日（日） 8：50～19：00

令和5年7月17日（月・祝） 8：50～18：00

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 3・4階講義室

共 催：（公社）東京都薬剤師会・（一社）薬学教育協議会・

（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員12名、

関東地区調整機構1名、東京都病院薬剤師会4名

参加者：52名（2P6S）

参加者内訳：各地区薬剤師会28名、東京都病院薬剤師会12名、関東地区調整機構10名（各県・病院薬剤師会（茨城2名、群馬3名、埼玉2名）、日本保険薬局協会3名）、大学2名

【第16回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和6年1月7日（日） 9：00～19：00

令和6年1月8日（月・祝） 9：00～18：00

開催場所：星薬科大学 新星館 1階・2階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)薬学教育協議会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 12名、

関東地区調整機構 1名、東京都病院薬剤師会 4名、

星薬科大学 1名

参加者：54名(2P6S)

参加者内訳：各地区薬剤師会 27名、東京都病院薬剤師会 12名、関東地区調整機構
13名(各県・病院薬剤師会 茨城1名、群馬2名、埼玉6名、神奈川4
名)、大学2名

【関東地区調整機構主催 第4回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和5年6月4日(日) 13:00～17:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

受講者：71名(内、受講証配付66名)

内 容：

1. 開会挨拶 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
委員長 中村 智徳
2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
3. 講座②-1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
事務局長 伊東 明彦
4. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
講座③-2「学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

【東京都薬剤師会 第1回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和5年6月4日(日) 13:00～15:15

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

受講者：86名

内容：

1. 開会挨拶 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
委員長 中村 智徳
2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
3. 講座④-1「平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座④-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
事務局長 伊東 明彦

【関東地区調整機構主催 第16回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和5年12月3日(日) 13:00～17:25

開催場所：武蔵野大学 有明キャンパス 5号館 3階教室

受講者：49名(内、受講証配付47名)

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
3. 講座②-1「平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 小佐野 博史
4. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
講座③-2「学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【東京都薬剤師会 第2回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和5年12月3日(日) 13:00～15:05

開催場所：武蔵野大学 有明キャンパス 5号館 3階教室

受講者：96名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
3. 講座④-1「平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)
講座④-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 小佐野 博史

【第1回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和5年9月3日（日） 9：00～17：55

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階教室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)薬学教育協議会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員16名、
東京都病院薬剤師会1名、関東地区調整機構1名

参加者：44名(1P3S)

参加者内訳：各地区薬剤師会21名、東京都病院薬剤師会23名

【令和4年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【D】】

開催日時：令和5年5月14日（日） 13：30～18：40

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)千代田区薬剤師会・

(一社)日本橋薬剤師会・(一社)京橋薬剤師会・(一社)港区薬剤師会・

(一社)新宿区薬剤師会・(一社)文京区薬剤師会・(一社)下谷薬剤師会・

(一社)浅草薬剤師会・(一社)中野区薬剤師会・(一社)杉並区薬剤師会・

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：中野区薬剤師会 会長 小川 達也・

杉並区薬剤師会 会長 匂坂 光秀

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員5名

各地区薬剤師会7名（日本橋1名、京橋1名、港区1名、
新宿区1名、文京区1名、浅草1名、杉並区1名）

参加者：29名(1P4S)

参加者内訳：千代田区2名、日本橋1名、京橋2名、新宿区5名、文京区2名、
下谷2名、浅草2名、中野区6名、杉並区4名、
他地区参加者3名(葛飾区1名、府中市2名)

【令和4年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【E】】

開催日時：令和5年8月6日（日） 13：00～18：05

開催場所：武蔵野大学 武蔵野キャンパス 8号館 3階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)目黒区薬剤師会・
(一社)世田谷薬剤師会・(一社)玉川砦薬剤師会・
(一社)渋谷区薬剤師会・(一社)府中市薬剤師会・
(一社)調布市薬剤師会・(一社)狛江市薬剤師会・
(一社)小金井市薬剤師会・(一社)国分寺市薬剤師会・
(一社)武蔵野市薬剤師会・(一社)三鷹市薬剤師会・
(一社)西武薬剤師会・
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

ディレクター：西武薬剤師会 会長 馬場 孝道

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員・実務実習委員会 委員4名

各地区薬剤師会 10名 (目黒区1名、玉川砦2名、府中市1名、
調布市1名、狛江市1名、武蔵野市1名、三鷹市1名、西武2名)

参加者：39名(1P5S)

参加者内訳：世田谷1名、玉川砦2名、渋谷区1名、調布市2名、狛江市4名、
小金井市1名、武蔵野市6名、三鷹市1名、西武18名、
他地区参加者3名(葛飾区2名、江戸川区1名)

【令和5年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【B】】

開催日時：令和6年2月25日(日) 13:00~18:50

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室

共 催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)新宿区薬剤師会・
(一社)目黒区薬剤師会・(一社)世田谷薬剤師会・
(一社)玉川砦薬剤師会・(一社)渋谷区薬剤師会・
(一社)中野区薬剤師会・(一社)杉並区薬剤師会・
(一社)豊島区薬剤師会・(一社)北区薬剤師会・
(一社)板橋区薬剤師会・(一社)練馬区薬剤師会・
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員・中野区 花井 祐一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員1名

各地区薬剤師会 13名 (新宿区1名、目黒区1名、玉川砦1名、
渋谷区1名、中野区1名、豊島区2名、北区1名、板橋区3名、
練馬区2名)

参加者：32名(1P5S)

参加者内訳：新宿区3名、世田谷2名、玉川砦2名、渋谷区7名、中野区1名、
杉並区1名、豊島区3名、北区1名、板橋区2名、練馬区10名

【令和5年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【C】】

開催日時：令和6年3月10日（日） 13:00～18:45

開催場所：東京薬科大学 5号館 2階講義室

共催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)西多摩薬剤師会・
(一社)八王子薬剤師会・(一社)南多摩薬剤師会・
(一社)町田市薬剤師会・(一社)府中市薬剤師会・
(一社)調布市薬剤師会・(一社)狛江市薬剤師会・
(一社)小金井市薬剤師会・(一社)国分寺市薬剤師会・
(一社)北多摩薬剤師会・(一社)武蔵野市薬剤師会・
(一社)三鷹市薬剤師会・(一社)西武薬剤師会・
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：町田市薬剤師会 会長 佐藤 康行

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事・南多摩 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員2名
各地区薬剤師会 16名（西多摩1名、八王子市1名、南多摩1名、
町田市2名、府中市1名、調布市1名、狛江市1名、北多摩2名、
武蔵野市1名、三鷹市1名、西武4名）

参加者：49名(1P6S)

参加者内訳：西多摩3名、八王子市17名、南多摩5名、町田市6名、調布市2名、
狛江市3名、北多摩4名、武蔵野市1名、三鷹市3名、西武5名

【令和5年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【A】】

開催日時：令和6年3月17日（日） 13:00～18:30

開催場所：北里大学 白金キャンパス 薬学部2号館 3階講義室

共催：(公社)東京都薬剤師会・(一社)千代田区薬剤師会・
(一社)日本橋薬剤師会・(一社)京橋薬剤師会・(一社)港区薬剤師会・
(一社)文京区薬剤師会・(一社)下谷薬剤師会・(一社)浅草薬剤師会・
(一社)墨田区薬剤師会・(一社)江東区薬剤師会・
(一社)品川区薬剤師会・(一社)大田区薬剤師会・
(一社)荒川区薬剤師会・(一社)足立区薬剤師会・
(一社)葛飾区薬剤師会・(公社)江戸川区薬剤師会・
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
江東区薬剤師会 会長 外山 和宏

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事・墨田区 濱野 明子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 2名

各地区薬剤師会 15名（千代田区1名、日本橋1名、港区1名、
下谷1名、墨田区1名、江東区2名、品川区2名、大田区1名、
荒川区1名、足立区2名、葛飾区1名、江戸川区1名）

参加者：35名(1P5S)

参加者内訳：千代田区1名、京橋1名、港区4名、文京区1名、墨田区3名、
江東区3名、品川区3名、大田区10名、荒川区3名、足立区1名、
葛飾区3名、江戸川区2名

(7) 地区薬剤師研修会への支援と都薬アワーの実施

都内28地区ごとに、薬剤師を対象に年2回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣するとともに開催経費の助成を行った。第1回の都薬アワーでは、本会の令和5年度活動テーマ「未来を創る生涯学修に取り組もう～見せよう「薬剤師」「地域薬局」の底力～」を基に「本年度の活動重点項目について」「薬薬連携推進事業におけるトレーシングレポートの活用」「t-MYLSについて」「薬局製剤の魅力」について本会講師が説明した。

第2回の都薬アワーでは、「薬局機能強化について～地域包括ケア薬局における薬局・薬剤師の機能強化事業から～」「薬局におけるサイバーセキュリティ対策」「令和4年度改訂版薬学教育モデル・コアカリキュラムの概要」「t-MYLSの活用方法」について説明した。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料2】のとおりである。

また、直扱会員に対しては、都薬アワーのオンデマンド配信を実施した。配信期間は、第1回は令和6年1月5日～1月31日、第2回は令和6年3月11日～3月29日とし、その間に各回44名（再生回数55回）、46名（再生回数62回）の直扱会員が受講した。

(8) 学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員薬局、本会の地区及び職域薬剤師会、本会各委員会等が実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成26年に設置された。日本薬剤師会学術大会では第52回(令和元年)より、演題登録時に倫理的配慮に関して確認が求められることとなり、現在では多くの学会で確認が行われている。

デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律の一部の規定が令和

5年4月に施行されたこと、また、「生命科学・医学系研究等における個人情報の取扱い等に関する合同会議」における議論等を踏まえ、令和5年7月より「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が一部改正され、インフォームド・コンセント手続等の見直しが行われた。これに伴い、本会ホームページに掲載している手順書・申請書様式等の見直しを行った。

(9) 次世代薬剤師育成事業の実施

令和4年度より次世代を担う薬剤師の育成や、地域医療において重要な役割を果たす地域薬局の維持を目指し、「次世代薬剤師育成プロジェクト」を立ち上げ、薬学生や若手薬剤師を対象とした取り組みを進めている。

令和5年度は、これまで3回実施した「学生の声を聴く会」を踏まえ、より学生の意向を反映させた「薬剤師のリアルを聴いてみよう！」(全2回)を開催した。都内薬科大学・薬学部在籍の薬学生を中心に、延べ人数35名(第1回13名、第2回22名)が参加し、薬剤師としてのキャリアデザインや様々な分野に精通している薬剤師と意見交換を行った。一方で、会員薬局に対しては、勤務者の高齢化や、後継者不足といった人的資源の課題解消の支援に資するよう準備を開始している。次年度以降においても、引き続き薬学生や薬剤師のスキルやキャリアに応じ、倫理観や深い思考力を有する薬剤師の育成を図っていく。

(10) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会の実施等、女性の健康への支援

今年度も、オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に対応できる多くの薬剤師を養成するため、Web研修にてオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会を下記のとおり開催した。

【オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会】

開催日時：令和6年3月11日(月)～3月18日(月)

開催方法：Webを用いたオンデマンドによる配信

申込者数：1,959名(内、会員外1,107名)

修了者数：1,936名(内、会員外1,095名)

内 容：(日本薬剤師会作成動画DVD、令和3年12月5日に開催時の撮影映像及び新たに作成した映像を使用)

1. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について

日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦

2. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点

(1) 月経、月経異常、ホルモンの調節機序

(2) OC 全般と避妊法

(3) 緊急避妊全般

公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事 宮崎 亮一郎

3. 「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について」

(1) 薬局での調剤の手順について

日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子

(2) 患者対応等について

一般社団法人日本女性薬剤師会 副会長

薬剤師生涯学習センター「性の健康」検討委員会 委員長 小宮山 貴子

4. 変更点等について

東京都薬剤師会 理事 小林 百代

2-2 薬局機能の充実対策

(1) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定に向けた事業の実施と支援

令和3年に地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の制度が施行され、このうち、専門医療機関連携薬局に関しては、令和2年より日本医療薬学会が「地域薬学ケア専門薬剤師制度」を発足し、基幹施設（病院）と連携施設（薬局）の連携により、良質な薬物療法を実践できる研修を履修する枠組みが構築された。

基幹施設（病院）における研修を希望する場合、5年以上の実務経験や学会発表または論文（いずれも筆頭）などの要件が求められている。

日本医療薬学会から令和6年4月に研修開始を希望する研修者（薬局薬剤師）と施設（病院）のマッチング作業が各都道府県薬剤師会へ依頼され、本会においても役員改選に伴い委員会の再編成を行い、体制を整えた。

(2) 健康サポート薬局の取得に向けた事業の実施と支援

(2-2(7)「健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援」の項を参照)

(3) 基準薬局の認定・更新

基準薬局制度はその発足以来、薬局並びに薬剤師による医薬分業と地域医療の推進の基盤を担ってきたが、平成27年3月末日をもって日薬による基準薬局制度は発展的に解消された。しかし、地域医療に貢献する医療提供施設として基準となる薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後本会として基準薬局制度を堅持していくこととした。これまでの日薬の認定基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、判定基準を昨年度見直し、健康サポート薬局及び地域連携薬局を目指す薬局の第一歩として今年度新規認定及び更新認定を行った。令和5年度の基準薬局認定数は482薬局であった。前年度に比べ45薬局減少した。

また、令和5年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1(5)③「令和5年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

(4) 実務実習受入れ態勢の整備

実務実習受入れ態勢の整備と、本会と各エリア間の連携強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」(以下、エリア担当者会議)を開催した。

本会議では、薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の概要と薬局実務実習受入に関するエリアの役割や注意事項を再確認するとともに、令和5年1月から8月に開催した「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【A】～【E】」(以下、「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」)の内容を踏まえ、各エリア責任者・担当者と本会との相互間の連携を図り、より多くの実務実習指導薬剤師の方々に参加していただける「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」の開催に向けて協議を行った。(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項を参照)。

新型コロナウイルス感染症のため2年間、開催を見送っていた「薬局実務実習受入に関する関東地区ブロック会議」を、本会が幹事県となり下記の通り開催した。日本薬剤師会から薬学教育全般の現状報告、関東地区調整機構から現状と諸課題について報告があり、日本薬剤師会・関東地区調整機構、関東地区(調整機構単位)各県薬剤師会、並びに関東地区(調整機構単位)の24大学と受入体制整備に関する意見交換を行った。

令和6年度の実務実習受入れに当たり、各エリアや受入薬局で行う準備や注意事項の伝達を目的とした「『令和6年度 実務実習受入薬局』伝達講習会」を下記のとおりオンライン配信で開催した。今年度講習会では、関東地区調整機構より令和5年度実務実習の状況報告と令和6年度方針、さらに令和4年度改訂版 薬学教育モデル・コア・カリキュラム対応の実務実習ガイドラインの概要について説明があった。加えて、実習生が同一疾患群の患者を継続して担当したことで、学生が成長した事例や、効果的な学習を行うために工夫した薬局・病院における実務実習実施計画書の組み立て方や、実習終了後に大学で実施したアンケートから満足度が高い実習について紹介した。本講習会へは、令和6年度薬局実務実習受入薬局の指導に係る全薬剤師をはじめ、各地区の実務実習エリア責任者やエリア担当者、並びに各大学との情報共有を図る目的で関東地区24薬科大学・大学薬学部の薬局実務実習担当教員を招請し、多くの関係者に伝達した。

令和元年度から設置した「都内大学との実習施設情報の共有と対応ワーキンググループ」では、今年度も本会と都内10薬科大学・大学薬学部間で実務実習終了後の実習

情報を交換し、実習中のトラブルを早期に防止するための対応策について協議・検討を行った。

【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

開催日時：令和5年11月18日(土) 18:00～20:30

開催場所：日本教育会館 7階 中会議室

出席者：地区薬剤師会役員、各エリア実務実習受入責任者・担当者 61名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）及び、薬局実務実習受入に関するエリア担当者へのお願い
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
3. より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ【A】～【E】からのフィードバック
東京都薬剤師会 常務理事 濱野 明子
4. 今後の「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ」の開催について
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 興水 淳
5. 各グループでの打合せ
6. 質疑応答
7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和5年度 薬局実務実習受入に関する関東地区ブロック会議】

開催日時：令和6年1月22日(月) 14:30～17:05

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 大学棟本館 4階教室

出席者：関東地区薬剤師会関係者・関東地区調整機構関係者・

日本薬剤師会担当役員及び特別委員会委員・関東地区24大学関係者 73名

内容：

1. 幹事挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典
3. 薬学教育関係全般の現状報告 日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子
4. 関東地区調整機構の現状及び課題に関する報告
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
5. 関東ブロックにおける受入体制整備に関する協議
座長 東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【「令和6年度 実務実習受入薬局」伝達講習会】

開催日時：令和6年2月4日(日) 9:30～12:50

開催方法：オンラインによるライブ配信

受講者：390名(東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員を含む)

受講者内訳：各地区の令和6年度実務実習受入施設の指導薬剤師等366名、
関東地区24大学のうち20大学*の薬局実務実習担当教員24名

* 参加大学：国際医療福祉大学、高崎健康福祉大学、城西大学、
日本薬科大学、城西国際大学、千葉科学大学、千葉大学、
東京理科大学、日本大学、北里大学、慶應義塾大学、
昭和大学、帝京大学、帝京平成大学、東京大学、
東京薬科大学、星薬科大学、武蔵野大学、明治薬科大学、
横浜薬科大学

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 実務実習状況報告と来年度方針 ～令和4年度改訂版 薬学教育モデル・コア・
カリキュラム対応の実務実習ガイドラインの概要～
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
3. 病院における実務実習実施計画書の工夫
東邦大学医療センター 大橋病院 薬剤部長 小林 秀樹
4. 薬局における実務実習実施計画書の工夫～繰り返しの経験でステップアップ～
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 高野 善文
5. 大学アンケートからわかる学生の成長 ～帝京大学のアンケート結果から～
東京都薬剤師会 理事 日下部 吉男
6. 実務実習受入れに関する注意事項及び、より質の高い実務実習を目指すための
ADWSについて 東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
7. 質疑応答 進行：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 興水 淳
8. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(5) 薬局業務研修会の実施

今年度は、「女性の健康支援」に係る内容を企画し、薬局業務研修会を下記のとおり開催した。

【薬局業務研修会】

開催日時：令和6年1月28日(日) 12:30～16:00

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：440名(内、会員外18名)

内容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 女性のライフステージごとの不調と対策
イク表参道 副院長 高尾 美穂
3. 地域活動として薬局薬剤師から発信するSRHR
～思春期、働き世代へのアプローチ方法～
OGP薬局荒川店 薬剤師 鈴木 怜那
4. 現代女性の悩みと健康サポート ～薬剤師としてできることを～
大岡山北口薬局 管理薬剤師 杉本 園子

(6) 薬機法に対応した医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(8. (2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施』の項を参照)

(7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援

平成28年4月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である(公社)日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会A》並びに《研修会B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文である「その73～78」の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会A》を2回、並びに《研修会B》を1回開催したほか、地域単位での《研修会A》を2回、《研修会B》を2回、開催の共催をした。《研修会A》は合計226名、《研修会B》は合計132名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、当会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

【第1回 令和5年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会A》】

開催日時：令和5年9月30日(土) 14:00～18:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容： 司会：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 基本理念
 - (1)「健康サポート薬局の基本理念」(DVD) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典
 - (2)健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～
東京都薬剤師会 理事 小林 百代
 - (3)グループ討議：薬局が地域の資源とどのように繋がるか
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
3. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携
 - (1)東京都の健康課題と健康増進施策～健康サポート薬局への期待～
東京都保健医療局 保健政策部 健康推進課長 坪井 博文
 - (2)他職種等の取り組みについて～健康サポート薬局との連携を探る～
 - 1)地域包括支援センターに関わる職種とその任務
～薬局薬剤師への要望を含めて～
京橋おとしより相談センター 管理者・社会福祉士 吉田 千晴
 - 2)薬局でも指導できる簡単体操
かもめケアネット代表 理学療法士
聖路加国際病院 リハビリテーション科 マネジャー 岡村 大介
 - (3)東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状
東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃
4. 演習 進行：東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
5. まとめ 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	26
会員	62
応募者計	88

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	26	86
	会員	60	
欠 席	一般	0	2
	会員	2	
応募者計			88

【第2回 令和5年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 <<研修会A>>】

開催日時：令和5年12月3日(日) 10:00～14:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容：

自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 基本理念
 - (1)「健康サポート薬局の基本理念」(DVD) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典
 - (2)健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
 - (3)グループ討議：薬局が地域の資源とどのように繋がるか
東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 長田 哲治
3. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携
 - (1)東京都の健康課題と健康増進施策～健康サポート薬局への期待～
東京都保健医療局 保健政策部 健康推進課長 坪井 博文
(9・30 収録映像)
 - (2)他職種等の取り組みについて～健康サポート薬局との連携を探る～
 - 1)地域包括支援センターに関わる職種とその任務
～薬局薬剤師への要望を含めて～
京橋おとしより相談センター 管理者・社会福祉士 吉田 千晴
(9・30 収録映像)
 - 2)薬局でも指導できる簡単体操
かもめケアネット代表 理学療法士
聖路加国際病院 リハビリテーション科 マネジャー 岡村 大介
(9・30 収録映像)
 - (3)東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状
東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃
4. 演習 進行：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 長田 哲治
5. まとめ 東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 長田 哲治
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	48
会員	74
応募者計	122

出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	48	119
	会員	71	
欠席	一般	0	3
	会員	3	
応募者計			122

【令和5年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修：《研修会B》】

開催日時：令和5年12月3日(日) 15:00～19:40

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容：

自己評価表 事前チェック

1. 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫
3. 一般用医薬品等を取り巻く現状 (DVD 講義) 日本薬剤師会 常務理事 岩月 進
4. 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応 (演習) (DVD 講義)
講師：日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 委員長 亀山 貴康
 昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門
 准教授 亀井 大輔
 演習進行：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 上原 健嗣
5. まとめ 東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

6. レポート作成

(応募・出席状況)

区分	人数	出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一般	40	104
一般	40		会員	64	
会員	64	欠 席	一般	0	0
応募者計	104			会員	
応募者計					104

なお、地区における開催地域及び研修会の参加人数等は【資料4】のとおりである。

(8) 登録販売者研修会の実施

平成24年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年12時間以上の外部研修を受講することが義務化された。令和4年度より外部研修実施機関の認可先が厚生労働省に変更となったことから、新たに厚生労働省から外部研修実施機関の認可を受け、会員の薬局並びに店舗販売業に従事する登録販売者を対象に、ガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、令和5年度登録販売者研修会を下記のとおり開催した。なお本研修会は、対面開催とオンデマンド配信により実施し64名の受講者に修了証を発行した。

【令和5年度 登録販売者研修会 1回目】

開催日時：令和6年1月20日(木) 17:00～20:00

開催場所：日本教育会館

受講者：67名

内容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 人体の構造と薬の特性① 東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
3. ビタミン主薬製剤、ビタミン含有保健薬等について
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
4. 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業
胃腸に作用する薬、婦人科用薬 等について
東京都薬剤師会 理事 大野 郁子

【令和5年度 登録販売者研修会 2回目】

開催日時：令和6年2月1日(木)～令和6年2月21日(水)

開催方法：オンデマンド配信

受講者：71名

内容：

1. 情報の取得と活用について セルフメディケーションとセルフケア
東京都薬剤師会 理事 日下部 吉男
2. 最近の薬務行政・医薬品販売制度について
東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子
3. 添付文書について 医薬品副作用被害救済制度について
東京都薬剤師会 理事 三溝 学
4. 店舗の管理及び区域の管理に関する事項、アンチ・ドーピング
東京都薬剤師会 理事 小林 百代
5. 皮膚の基礎疾患と皮膚疾患～みずむし・やけど～
東京都薬剤師会 理事 藤尾 絵美
6. 漢方概論と代表的な生薬の働き
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【令和5年度 登録販売者研修会 3回目】

開催日時：令和6年2月24日(土) 17:00～20:00

開催場所：日本教育会館

受講者：66名

内容：

1. 人体の構造と薬の特性② 東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
2. 風邪薬・解熱鎮痛薬、一般用検査薬等について
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

3. アレルギー反応と代表的な症状への対応～鼻炎・結膜炎～

東京都薬剤師会 理事 藤尾 絵美

(9) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

平成 18 年度より高度管理医療機器等営業所管理者等に年に一度継続研修が義務付けられている。令和 5 年度も実施機関の認可を得ている日本薬剤師会と共催して継続研修会を開催し、受講者に修了証を発行した。

なお、厚生労働省より昨今の社会情勢に鑑み、今後、インターネット等を利用した講習等の実施が認められたことを受け、日本薬剤師会が研修実施場所として会場の他、受講者自宅や職場等を含めた許可内容を変更し、Web 配信も対象となったことから、今年度も Web によるオンデマンド配信による開催とした。

【高度管理医療機器等営業所管理者等に係る継続研修会】

開催日時：令和 5 年 11 月 20 日(月)～11 月 27 日(月)

開催方法：オンデマンド配信

修了者：2,024 名(内、基準薬局会員 300 名、会員 1,509 名、会員外 215 名)

修了者内訳：東京都 1,646 名、神奈川県 132 名、埼玉県 118 名、千葉県 108 名、茨城県 4 名、愛知県 1 名、栃木県 2 名、群馬県 4 名、山梨県 2 名、北海道 5 名、静岡県 2 名

内 容：＜日本薬剤師会作成のコンテンツを利用＞

1. 医薬品医療機器等法の概要および改正

公益財団法人 医療機器センター 常務理事 新見 裕一

2. 医療機器の品質管理

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 販売・保守委員会 委員 浦富 恵輔

3. 医療機器の不具合報告及び回収報告

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 PMS 委員会 委員 三田 哲也

4. 医療機器の情報提供および薬剤師が知っておきたい機器等の話題

公益財団法人 医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員 本田 大輔

※ 当日資料：令和 5 年度継続研修テキスト(医療機器センター)

(10) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

医療用医薬品の適切な流通を目的とし、平成 28 年より東京医薬品卸業協会の役員と当会役員で本協議会を設立し継続して医薬品の安定供給に関して連携体制を構築に努めた。COVID-19 の感染拡大防止のため、令和 2 年度より開催中止を余儀なくされていたが、令和 5 年度は開催し、「土日・休日等の医薬品配送体制」「後発医薬品等の流通・供給状況」「災害時における医薬品の供給・搬送体制と設置要綱」等について意見交換を行った。

(11) 健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築に関する薬局製剤の普及
日本薬剤師会より発出された、薬局製剤の普及促進を目的とする研修会に対する講師派遣事業の実施についての文書を地区薬剤師会へ周知した。

(12) 休日・夜間等における医薬品供給体制の整備・拡充
地区薬剤師会において、地域住民への休日対応薬局の情報提供を行っている。

2-3 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応
各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

(2) 東京都保健医療計画に対応する地域医療構想調整会議への参加と協力
地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するとともに、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努めた。

(3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進
前年度に引き続き東京都委託事業「薬薬連携推進事業」において、トレーシングレポートによる保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備した。

また、昨年度同様に「大腸がん」をテーマに「患者自身」「薬剤師」「最も大切な人」の3つの立場からがん治療を考え、それぞれの立場での悩みや不安など患者体験を通してその気持ちや役割を体験できるスモールグループディスカッション形式の研修会を下記のとおり開催した。

【がん薬物療法の服薬支援のための研修会】

開催日時：令和6年3月10日(日) 13:00～17:20

開催場所：エッサム本社ビル3階グリーンホール

参加者：21名(内、会員16名)

内 容：

1. 開会の挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
2. 大腸がん患者のトータルペインに薬局薬剤師はどう寄り添い、向き合い、言葉を選んでいくのか ～大腸がんの薬物治療を含めて～

東京医科大学病院 薬剤部 東 加奈子、
辻仲病院柏の葉 看護部長 柏谷 優子

3. スモールグループディスカッション

タスクフォース：東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会・東京都病院薬剤師会

4. 閉会の挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(4) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

昨年度に引き続き、令和5年度も「都内の薬局又は薬剤師に対し、在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保、地域連携促進に向けた体制構築、関係者との協力関係構築、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発を実施し、薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの参加促進を図る」ことを目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。

当該委託事業実施要領や地域支援事業に関する情報などを地区薬剤師会経由で会員に周知するとともに、「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」を開催して昨年度各地区薬剤師会が実施した事業の報告と本年度事業の説明を行い、各地区薬剤師会に事業の実施を依頼した。

「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」では事業概要の説明を行った後に各地区で計画に則り研修会を開催した。多職種連携による訪問服薬指導の推進における地域薬局連携のための研修会(Ⅱ-a1)は28地区で実施した。地域施設実地研修(Ⅱ-a2)では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を23地区で実施した。地域包括ケアシステムの早期実現に向けて地域ごとの問題、構築方法等について検討する多職種連携連絡会(Ⅱ-a3)は28地区で実施した。地域連携構築に向けた多職種間における連携促進・啓発(Ⅱ-b)では、住民への啓発並びに連携促進を30地区薬剤師会で実施した。多職種との連携促進のうち、関係者連絡会では3月の会議で年度活動結果を報告した。

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料3】のとおりである。事業報告の総数は前年とほぼ同数だが、前年と比較し研修会、講習会について現地開催増加の傾向が見られた。

また、新たな連携薬局活用のための基盤整備や多職種連携を強化するとともに、在宅患者への訪問服薬指導に必要な知識について解説する「在宅訪問ステップアップ研修会」を実施した。今後在宅医療に参画する意思はあるものの、いまだ取り組めていない薬剤師に向けた基本的知識や書式類、在宅で扱う医療材料の取り扱い等をわかりやすく解説する基礎研修と、心不全患者の在宅医療と多職種の連携をテーマに具体例の列挙、医師・薬剤師・訪問看護師等を講師に招きディスカッション等の実践研修を計3日程のZoom形式で開催した。第1回は「在宅医療初期講習」(369名)、第2回は「心不全患者と多職種連携」(362名)、第3回は「心不全の在宅医療」(345名)をテーマに開催した。前年度の研修会(第1回372名、第2回346名、第3回339名)と比較すると初期講習の受講者は若干名の減少があったが、実践研修の受講者数は各回ともに増加が見られた。

無菌調製技能習得研修では、これまでの「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」と同様に、都内薬系大学と協力して研修を実施した。前年度同様、従来からの無菌調製に関する基本的な知識・手技を行う基礎研修(於：帝京平成大学)に加え、今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、在宅における緩和ケア医療に関する基本的な知識や疼痛管理における輸液ポンプ操作等の手技を行うステップアップ研修(於：星薬科大学)を実施した。

また、令和3年度から、服薬情報等提供書(トレーシングレポート)による保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備して、患者の服薬状況等の一元的・継続的な把握を進め、質の高い医療の提供を目指すことを目的とした「薬薬連携推進事業」を実施している。令和3年度から5年度にかけて全12医療圏(二次医療圏)で行う本事業では、今年度は下記の4医療圏をモデル地区に選定し、当該地区の薬局及び医療機関の担当者に対して「薬薬連携推進事業担当者説明会」を令和5年9月に開催した。また、「薬薬連携推進関係者連絡会」を令和6年3月に開催し、今年度の取り組みの結果について報告した。

〔令和5年度モデル地区〕

	医療圏	対象地区
1	区東北部	足立、荒川、葛飾
2	区西部	新宿、杉並、中野
3	北多摩北部	清瀬、小平、西東京、東久留米、東村山
4	北多摩西部	昭島、国立、国分寺、立川、東大和、武蔵村山

【地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議】

開催日時：令和5年7月8日(土) 18:00~20:00

開催場所：日本教育会館 7階 中会議室

出席者：48地区74名

内 容：

1. 開会挨拶
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓
2. 令和5年度 東京都委託事業について
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 鎌田 智之
3. 令和4年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業報告
令和5年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業について
東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
4. 地域連携の下地作り
東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
5. 地域ケア会議の参画への取組
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

6. 【討論】シンポジウム形式 座長：東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和5年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 関係者連絡会】

開催日時：令和6年3月12日（火） 18：00～19：10

開催場所：東京都薬剤師会館 3階会議室

出席者：11名（オブザーバー4名含む）

出席者内訳：東京都医師会1名、東京都看護協会1名、東京都訪問看護ステーション協会1名、東京都介護支援専門員研究協議会1名、東京都薬剤師会3名

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
2. 東京都委託事業について
東京都保健医療局 健康安全部薬務課 事業連携担当 鎌田 智之
3. 東京都薬剤師会における令和5年度 地域包括ケアシステム薬局・薬剤師の機能強化事業の取組について 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
4. 令和5年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業～練馬区 取組事例～ 東京都薬剤師会 理事 會田 一恵

【令和5年度 第1回 在宅訪問ステップアップ研修会】

開催日時：令和5年11月9日（木） 19：00～21：00

開催方法：ライブ配信（Zoom ウェビナー）

受講者：369名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 東京都福祉保健局挨拶 東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 鎌田 智之
3. 在宅医療初期講習 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
4. はじめて在宅訪問する前に知っておきたいこと
東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
5. 在宅医療で連携する多職種辞典 2023年版
東京都薬剤師会 理事 會田 一恵
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和5年度 第2回 在宅訪問ステップアップ研修会】

開催日時：令和5年11月16日（木） 19：00～21：00

開催方法：ライブ配信（Zoom ウェビナー）

受講者：362名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 心不全がある在宅療養者の訪問看護
有限会社ホームケア・ナース なごみ訪問看護ステーション 所長 葉山 香里
3. 心不全患者の退院支援について ～多職種連携で関わる必要性について～
市立青梅総合医療センター 地域連携室主任 戸田 美音子
4. 多職種連携でつなぐ心不全薬物治療管理 ～薬剤師に何ができるか？～
つなぐ薬局柏 薬剤師 鈴木 邦彦
5. シンポジウム ～質疑応答～
進行：東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

【令和5年度 第3回 在宅訪問ステップアップ研修会】

開催日時：令和5年12月7日(木) 19:00～21:00

開催場所：ライブ配信 (Zoom ウェビナー)

受講者：345名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
2. 心不全の在宅医療
医療法人社団 若水会 牛込台さこむら内科院長 迫村 泰成
3. シンポジウム ～質疑応答～
医療法人社団 若水会 牛込台さこむら内科院長 迫村 泰成、
東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【無菌調製技能習得研修会 (ステップアップ研修)】

開催日時：令和6年2月23日(金・祝) 10:00～16:25

開催場所：星薬科大学 第二新館 7階講義室、臨床実習室、無菌製剤室

参加者：29名* (内、修了証配付29名)

*「無菌調製技能習得研修会」の修了証を有する者

内容：

<講義>

1. 開講にあたって 東京都保健医療局健康安全部 薬務課長 中島 真弓
星薬科大学 学長 牛島 俊和
東京都薬剤師会 副会長 高松 登

2. 疼痛管理における PCA ポンプの役割

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 添石 遼平

3. 緩和医療の基礎知識

星薬科大学 実務教育研究部門 教授 佐野 元彦

<実習>

1. 無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 前田 桂吾

2. CADD-Solis ポンプの機能と操作方法

スミスメディカル・ジャパン株式会社

Infusion Therapy Sales 東日本リージョン 鈴木 偉宏

3. 閉会式(統括・修了証の授与)

【無菌調製技能習得研修会 (基礎研修)】

<講義>

開催日時：令和6年1月28日(日) 9:30~15:00

開催形式：オンライン配信

受講者：114名

講義内容：

1. 開講にあたって

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

帝京平成大学 薬学部長 亀井 美和子

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 在宅医療における無菌調剤の現状

東京都リハビリテーション病院 診療部 薬剤検査科長 越田 晃

3. 輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 学術部学術担当 関東ブロック 課長 小鶴 泰俊

4. 中心静脈栄養法 (TPN) の基本

帝京平成大学 薬学部 准教授 島崎 学

5. 注射剤の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

<実習(1)>

開催日時：令和6年3月3日(日) A班9:30~14:30、B班12:45~17:30

開催場所：帝京平成大学中野キャンパス3階

参加者：計57名 (内訳：A班29名、B班28名)

<実習(2)>

開催日時：令和6年3月17日(日) (A)9:30~14:40 (B)12:45~16:40

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 3階

318 調剤実習室、313 無菌調剤実習室、303・304 教室

参加者：計52名 (内訳：A班24名、B班28名)

実習(1)(2)内容：

1. 手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など
2. 混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)
3. 総括・修了証授与

【薬薬連携推進事業 担当者説明会】

開催日時：令和5年9月29日(金) 18:30~19:35

開催方法：Zoomを使用したWeb会議

出席者：65名(内訳：薬局担当者19名、病院担当者46名)

内 容：

1. 開会の挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 薬薬連携推進事業の目的について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課 事業連携担当 鎌田 智之
3. 薬薬連携推進事業の運用の流れについて
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
4. 令和4年度トレーシングレポート運用報告(医療機関より)
東邦大学医療センター大森病院 薬剤部長 松本 高広
5. 令和4年度トレーシングレポート運用報告～保険薬局～
青梅薬剤センター薬局 鈴木 真吾
6. 閉会の挨拶 東京都病院薬剤師会 会長 後藤 一美

【薬薬連携推進関係者連絡会】

開催日時：令和6年3月21日(木) 18:30~20:00

開催方法：Zoomを使用したWeb会議

出席者：9名(オブザーバー1名含む)

出席者内訳：東京都医師会1名、東京都病院薬剤師会3名、東京都薬剤師会4名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 東京都委託事業「薬薬連携推進事業」について
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
3. 東京都委託事業「令和5年度薬薬連携推進事業」アンケート調査結果について
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
4. 質疑応答
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

2-4 医療安全対策

(1) 薬機法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座・精神疾患の薬物療法と薬学的管理」の講習を行った（2-1（5）「薬学講習会等各種講習会の開催②」の項を参照）。

(2) 薬局版ヒヤリハット事例収集分析事業への協力と会員薬局登録及び報告促進等調剤事故防止対策の徹底

調剤報酬における特掲診療料の「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。このことにより、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し事例を報告する参加薬局は年々増加している。2023年12月末日現在の都内参加薬局数は、5,333軒（参考：2022年12月5,067軒・2021年12月4,862軒・2020年4,632軒）となった。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第28・29回報告書及び2022年報を地区薬剤師会へ周知した。

直近の第29回報告（報告期間2023年1月～6月）において、事業参加登録は45,290薬局、調剤に関して8,245事例、疑義照会に関して41,561事例、他計70,000余事例が報告されている（参考：2022年比較 43,166余薬局、調剤9,293事例、疑義照会45,376余事例、他計73,000強の事例）。

ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.197～208と報告書第73～75回の薬剤関連部分や、日本薬剤師会に報告された調剤事故事例（令和4年度版）を情報提供し、薬局における事故未然防止のための周知を図った。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成27年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

(4) 東京都医療安全支援センターへの協力

令和5年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は2件受付けている。苦情の内容として、薬局での調剤ミスに関する事、一般用医薬品の副作用に関する事各1件であった。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来 21 余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

令和 5 年度は、回収専用容器を 18 万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。なお、昨今の原材料費や配送料等の高騰により、7 月注文分より容器販売価格を 1 個あたり 110 円から 140 円に値上げさせていただいた。また、新規参加薬局 71 件に対しても事業参加支援を行った。また、都内全域で 17 万本強(昨年度より 4.5%減少)の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

また、在宅医療廃棄物の適正処理に関する現状及び課題について、東京都環境局担当者と当会担当役員間で情報共有を図ると共に、東京都環境局へ今後の更なる協力への働きかけを行った。

(6) 薬剤イベントモニタリング(DEM)事業への協力

DEM事業は、日本薬剤師会において 2002 年度より、薬局が医薬品の適正使用に一層貢献することを目的として実施されている事業である。

この事業は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、調査対象医薬品(令和 5 年度は、新型コロナウイルス治療薬 3 品目を含む 9 品目)を使用した患者に発生したイベントの内容を調査するとともに、その発生が新薬(3 品目)と比較薬(3 品目)の間で異なるか等についても調査が行われた。

DEM事業の実施にあたり、地区薬剤師会を通じて、DEM事業周知のための薬局用説明書等を会員薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。また、本会ホームページ(会員用)に日薬が用意した報告画面へのリンクを作成するなど適宜整備を行った。

2-5 都民への広報対策

(1) 健康サポート薬局、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民への周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した「かかりつけ薬剤師・薬局」及び「健康サポート薬局」等の機能を説明したチラシを、店内外に分かりやすく示せるよう会員薬局に配布し、都民への周知を行った。

(2) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」認定制度の都民への周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した地域連携薬局等の制度開始等の内容を説明したチラシを、店内外に分かりやすく示せるよう会員薬局に配布し、都民への周知を行った。

(3) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

「令和5年度 東京都重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業」

重複・多剤服薬者の対策は、国民健康保険の保険者が被保険者の健康保持・増進及び医療費適正化を図る上で重要な課題であり、東京都は令和2年度から令和4年度まで都薬剤師会と連携したモデル事業を実施した。モデル事業では、都が指定したモデル自治体において地区薬剤師会と連携した重複・多剤服薬者に対する服薬指導の取組が推進された。

令和5年度では新たに「重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業」の委託を受けてモデル事業の形態（地区薬剤師会への服薬指導の委託）に限定せず、自治体（区市町村）における薬剤師と連携した重複・多剤服薬者対策を推進することとなった。

概要としては本事業の参加を希望した自治体の地域の状況に応じて、重複・多剤服薬者対策（保健指導の勧奨、重複・多剤者対策等の報告、服薬指導に関する助言等）を各地区薬剤師会で行い、支援を通し自治体と薬剤師会の連携を深めることを目的とした事業である。都薬剤師会は自治体と地区薬剤師会のマッチングや助言等の後方支援の立場として本事業を実施した。

本年度の事業参加を希望した自治体は【中央区、渋谷区、北区、八王子市】の4自治体、令和6年度の事業参加を希望し調整を行った自治体は【中野区、小金井市、立川市、武蔵野市】の4自治体であった。

都薬剤師会においては計8地区全てと協議を実施し、事業意義について関係者の理解を深め支援するとともに、次年度以降を見据えた実施計画の策定（事業対象の自治体数の拡大）や具体的な体制整備について東京都と協議を行った。

今後、より多くの地域において連携事業が展開されるよう、引き続き支援を行っていくこととした。

(4) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発

平成28年4月より施行された「健康サポート薬局」の基準に、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が明記された。

各薬局が安全・適正な医薬品使用のための都民への情報提供に積極的に取り組めるよう、おくすり手帳（改訂版）を頒布した（9,750冊（前年度約1.3万冊、一昨年度約1.3万冊））。また、電子お薬手帳「eお薬手帳」の運営会社の移行に伴い、機能を拡充した患者向けスマートフォンアプリ及び薬局システムである「eお薬手帳3.0」につい

て、システムの変更、オンライン服薬指導機能の説明会について会員へ周知した。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の請求等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計2,100件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

〔月別質問件数〕

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4月	220	8月	189	12月	180
5月	112	9月	138	1月	220
6月	140	10月	145	2月	236
7月	155	11月	123	3月	274

関東信越厚生局管内10都県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年1回1都9県持ち回り開催しており、令和5年度は神奈川県薬剤師会が主催し、36名が出席した。令和6年1月14日開催の会議に、医療保険担当役員1名、医療保険委員1名が出席した。令和元年度より管理薬剤師を対象として、薬剤師が社会に対して果たすべき責務、管理薬剤師に求められる薬局管理のあり方や法令遵守事項等について解説する研修会を東京都との共催で実施している。

令和5年度は都内薬局に従事する薬剤師に対し、今般の薬剤師の役割の変化を踏まえ、それに対する気づきや行動変容を求める内容で東京都との共催により日本教育会館においてオンラインを併用し開催した。

【薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和5年12月2日(土) 18:30~20:30

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：253名

内容：

1. 本研修会の趣旨について
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓
2. 調剤過誤・業務上のトラブルにおける問題
第一東京弁護士会 副会長 三谷 和歌子
3. 改正薬機法で求められる法令順守の考え方

【ライブ配信 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時：令和5年12月2日(土) 18:30～20:30

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：1,710名

内容：同上

(2) 適正な保険請求業務の指導

(3-1 (3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)。

(3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討

令和6年6月から実施される調剤報酬改定等に係る算定要件の内容等を掲載した「国民健康保険調剤必携」を発行した。調剤報酬点数とその算定要件、療養担当規則等の改正点、調剤報酬明細書記載要領、介護報酬の改定等について掲載し、地区薬剤師会を通じて全会員保険薬局に配布し適正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じてすべての会員保険薬局に配布を行った。

(4) 社会保険地区指導者等の育成及び協議会の開催

地区の医療保険指導者に対して令和5年度医療保険地区指導者研修会を開催し、調剤報酬の正しい理解と地区会員に対する伝達及び周知を依頼した。

【第1回 医療保険地区指導者研修会】

開催日時：令和5年4月13日(土) 19:00～21:00

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター ホール3D

受講者：45名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男
2. 令和5年度調剤報酬改定及び令和6年度介護報酬改定等について
東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤 慶彦
3. 最近の医療保険に関する情報 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
4. 医療保険地区指導者養成講座について 東京都薬剤師会 理事 田極 淳一
5. 質疑応答
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

【第2回 医療保険地区指導者研修会】

開催日時：令和6年3月16日(土) 18:00~20:00

開催場所：日本教育会館 中会議室 (701・702号室)

受講者：52名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 令和6年度調剤報酬改定等に関する内容解説 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
3. 質疑応答
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

(5) 保険薬局の経営等に関する各種調査

令和5年度は、

- ・『令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査)』
- ・『令和5年度医薬品価格調査及び特定保険医療材料価格調査』

等を対象として無作為抽出された会員薬局等に日本薬剤師会の依頼により、地区薬剤師会に周知依頼を行った。

(6) 後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

後発医薬品の安定供給については、会員から寄せられた苦情などの情報を収集し、厚生労働省医政局経済課にその都度情報提供を行っている。令和5年度は25件の意見及び情報が寄せられ、厚生労働省並びに日本薬剤師会に情報提供を行った。

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努め、第15回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

(7) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、自家製剤、計量混合及び一包化など)あるいはどのような薬学的管理(服薬管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第15回目を実施した。

さらに、後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、令和5年10月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかわる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした（7.（4）「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照）。

（8）広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う公費支援の見直し等に関する通知文等を地区職域会長会や都薬アワーでの講演等で周知を図った。

（9）対人業務の充実に向けた医療DX化への対応

電子処方箋やオンライン資格確認等の導入・取扱い方法等について、地区薬剤師研修会の都薬アワーでの講演等により周知を図った。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

（1）在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速な高齢化に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関し、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。令和5年度はその一環として「在宅療養多職種連携研修会」を日本教育会館にて開催した。本研修会は2部構成とし、第1部は『第8次医療計画の中での在宅における多職種の関わり』をテーマに医師の立場から在宅療養時を通じたサービス提供に関わる多職種との連携について検討を行った。第2部は在宅における摂食嚥下機能、口腔ケアの重要性について歯科医師から、栄養管理のポイントについて管理栄養士から講演いただき、総括として演者による質疑応答の場も設けた。

【在宅療養多職種連携研修会】

開催日時：令和6年2月10日（土） 18：00～20：30

開催場所：日本教育会館 3階 一ツ橋ホール

受講者：239名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 基調講演
「変わる医療制度 第8次保健医療計画で示された在宅医療の方向性」
公益社団法人東京都医師会 副会長 土谷 明男
3. 「在宅における摂食機能療法と口腔健康管理の重要性」
日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 准教授 阿部 仁子
4. 「在宅における栄養管理のポイントについて～訪問管理栄養士の立場から～」

機能強化型認定栄養ケア・ステーション eatcoco 代表
認定在宅訪問管理栄養士 米山 久美子

5. 質疑応答 座長： 東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 会員に対する安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

①薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 48 年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して会員に対する情報提供を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

【会員等に対する情報活動(令和5年4月～令和6年3月)】

(問合せ件数)

令和5年 4月	58件	10月	33件
5月	40件	11月	13件
6月	33件	12月	18件
7月	15件	令和5年 1月	28件
8月	30件	2月	38件
9月	21件	3月	33件
		合 計	360件

(問合せ者別集計)

①薬局	41人	(12.5%)
②病院・診療所	9人	(2.7%)
③卸	0人	(0%)
④管理センター	2人	(0.6%)
⑤製薬会社	3人	(0.9%)
⑥医療関係者	14人	(4.3%)
⑦その他	260人	(79.0%)
合 計	329人	

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者・関係者		一般	
①保険・法規関係	25件	(6.9%)	16件	(21.6%)	9件	(3.1%)
②医薬品一般	43件	(11.9%)	1件	(1.4%)	42件	(14.7%)
③副作用・中毒	27件	(7.5%)	0件	(0%)	27件	(9.4%)
④薬理・疾病	36件	(10.0%)	2件	(2.7%)	34件	(11.9%)
⑤薬剤学的事項	8件	(2.2%)	5件	(6.8%)	3件	(1.0%)
⑥製剤識別	1件	(0.3%)	0件	(0%)	1件	(0.3%)
⑦ドーピング	189件	(52.5%)	44件	(59.5%)	145件	(50.7%)
⑧その他	31件	(8.6%)	6件	(8.1%)	25件	(8.7%)
合計	360件		74件		286件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年とほぼ同数であった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが約5割を占めた。

②医薬品情報提供事業

1)DI 速報(FAX等)の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 400～408 9回

新薬情報 No. 145～148 4回

2)広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を地区薬剤師会宛にメールにて周知を行った。

(2) インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼り、会員への周知に努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、発行後、PDF形式にて掲載している。

(3) 都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成したQ&A集等参考書籍、データを収集した。

(4) 都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ11件の被害情報を報告した。

会員から広く被害事例を収集するため、「健康食品情報共有シート」を年に2回、「都薬雑誌」に同封した。また、地区薬剤師会の協力を得て、2023年10月に開催した「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所を利用して、都民に対し情報収集を行った。新型コロナウイルスの影響により、街頭相談所を開設することが困難な地区においては、会員薬局に対して直接情報収集を依頼した。なお、本事業の周知・協力依頼を目的とした、都民向けチラシ「健康食品・サプリメントの摂取によってこんな悩み抱えていますか?」、「健康食品・サプリメント情報シール」を作成して、「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所で配布した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成18年7月～令和5年11月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、チラシ「サプリ・健康食品の摂取で体に違和感がでていませんか?」を地区薬剤師会経由で会員薬局に配布した。

(5) 関係諸団体との連携、情報収集

日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会(オンライン)等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

5. 衛生試験所での試験検査対策

(1) 随意試験：会員薬局の医薬品における調剤及び販売業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、又は付着しているものは販売・授与のみならず輸入や貯蔵・陳列が禁止されている。それを取扱う薬局の開設者及び管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(薬機法)及びその施行規則で義務付けられている。

これに該当する医薬品が今年度は3検体が会員薬局より依頼された。その内訳は漢方処方による薬局製剤1検体、化学薬品を主とする薬局製剤1検体及び処方箋医薬品1検体であった。また、一般用医薬品1検体の試験も行った。

漢方処方の薬局製剤は煎液であり、微生物汚染の懸念が持たれたことから「生薬及び生薬を主たる原料とする製剤の微生物限度試験法」により試験を行ったところ、総好気性微生物の集落(コロニー)数が過剰に検出されたことから、不良医薬品と判断し、依頼薬局に報告した。

化学薬品を主とする薬局製剤は、品質の疑義を製造販売薬局から問われた事案で、含量の均一性を証明し、正しく製造されていることを依頼薬局に報告した。

処方箋医薬品は、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）を用い調剤された分包品中の薬量を算出し、依頼薬局に報告した。

一般用医薬品は、薬局より提出された生薬製剤で品質に疑義を生じたため、試験所独自に購入し、日本薬局方及び薬局製剤業務指針に従い試験を行った。その結果、規格に外れると思われる項目が発見されたので、試験データを添えて行政（東京都保健医療局）に報告・相談を行った。

（2）計画的試験：試験所契約の薬局が製造・販売する薬局製剤の承認規格試験

薬局製剤として任意に提出された 41 種類 76 検体を試験した結果、外用薬では含量不足 2 検体、漢方製剤では規定生薬を認めず別種生薬を認めた 1 検体、生薬製剤では原料が第十八改正日本薬局方に規定されるものと異なった 1 検体の合計 4 検体が承認規格基準に外れたものであった。試験及び結果の詳細については、令和 5 年度医薬品計画的試験結果の集計報告にまとめ報告した。

なお、薬機法に不適合ということで、製造販売した薬局には速やかに結果を報告するとともに、その処方・規格の確認及び製造記録の再確認を依頼した。これらの不適合品の販売は中止していただいている。

令和 5 年度薬局製剤（41 種類）の承認適否試験結果

	処方数	検体数	適合	不適合
1) 漢方薬（切断生薬）	22	29	28	1
2) 生薬製剤（生薬末）	5	6	5	1
3) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格有）	5	18	18	0
4) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格無）	4	14	14	0
5) 外用薬（定量規格有）	4	5	3	2
6) 外用薬（定量規格無）	1	4	4	0
合計	41	76	72	4

（3）薬局製剤プロジェクトチームの研修に伴う品質試験

薬局製剤プロジェクトチームによる研修会が開催されなかったため、品質試験を行わなかった。

（4）日本薬剤師会が実施する全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）への協力・参画

日本薬剤師会より、試験の実施に必要な試薬の入手が見通せず、かつ代替品の選定も容易ではないとのことから、今年度の全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）を中止するとの報告を受けたため、医薬品試験に係る精度管理試験を行わなかった。

(5) 薬局製剤五苓散の保存にともなう品質劣化に関する情報提供

薬局製剤である生薬製剤には、精油含量低下により品質劣化を生じるものがあることから、五苓散及び原料であるビャクジュツ末を事例として、保管管理の検討を行った。粉末生薬の微粉末化が進んだことにより、精油成分の消失が顕著であり、本剤の予製化は品質劣化が生じやすいなどの結果を得たことから、第56回日本薬剤師会学術大会(和歌山県和歌山市開催)において『品質劣化が疑われたビャクジュツ末の保管について』と題し、五苓散の内容も含め発表し、広く情報提供を行った。

(6) 定量規格のない薬局製剤の新規試験法の開発と試験結果

薬局製剤には製造販売基準に定量規格が欠けている処方がある。今年度の計画的試験においてそのいくつかの試験依頼があったことから、新しい試みとして、当試験所で独自に試験法を作成し、定量試験を実施した。その結果は概ね規定量の90%~110%の範囲内の製剤であった。これらの結果は、令和5年度医薬品計画的試験結果の集計報告に報告した。

(7) 外部精度管理試験への参加

外部精度管理試験として、厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、HPLCを用いたウルソデオキシコール酸の定量及び質量偏差試験を行い、結果を厚生労働省(国立医薬品食品衛生研究所薬品部)に報告した。なお、令和4年度の結果については指摘事項も特になく、問題ないとの通知を受けた。

(8) 内部精度管理試験の実施

内部精度管理試験として、HPLCを用いたカフェインの定量を行った。その結果は概ね良好な結果であり、記録簿に記載し保存した。

6. 「図書企画・編纂・出版」事業

(1) 会員に対する情報提供メディアとしての『都薬雑誌』の企画・編集

会員にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を12回発行した。特徴ある企画を、以下に挙げる。

新型コロナウイルス感染症流行当初より問題となっているCOVID-19罹患後の後遺症の疫学や症状をわかりやすく解説した「新型コロナウイルス感染症COVID-19の現在—後遺症」を掲載し、患者からも多く関心が寄せられる「コロナ後遺症」に関する情報提供を行った。また、「私の新型コロナウイルス感染記」では新型コロナウイルス感染症に実際に患った筆者のリアルな体験がつつられるとともに、療養中に役立つアイテムなどが紹介され、薬局業務の一助となる情報が提供された。

患者のセルフメディケーションを支援するために欠かせないOTC医薬品への知識

を深めるためのシリーズとして「やさしくケースで学ぶ～OTC 医薬品入門 Q&A～」を企画し、忙しい業務の隙間時間で、OTC 医薬品販売の注意点が理解できるようクイズ形式にて掲載した。また、薬薬連携における情報共有のためのツールのひとつであるトレーシングレポートの活用方法やその書き方を解説するシリーズ「あなたも診療に役立つトレーシングレポートが書ける」、トレーシングレポートに加えて薬歴記載時に欠かせない分かりやすい文書の書き方を解説した「薬剤師さんが伝わる文書を書くための7つのポイント」を掲載した。

医療安全について学ぶための企画シリーズ「薬局ヒヤリ・ハット事例から学ぼう」、保険調剤を適切に実施いただくための企画シリーズ「令和4年度 調剤報酬改定のポイント」、加えて薬剤師の基礎知識として「新薬情報アップデート」「はじめての中医学教室」「薬局で活用できるくすりの適正使用情報とは」「女性のヘルスケア」「嚥下障害と簡易懸濁法」などを掲載した。

地域医療に着目した企画としては、シリーズ「泌尿器科開業医の日頃の診療」「高齢者のトレーニング」「自律神経系と体調不良」「産婦人科よもやま話」を掲載した。

地域の在宅医療に取り組む薬局薬剤師に着目した企画としては、「東日本大震災及び原子力災害以降無薬局だった地域での地域医療へのかかわりの必要性和課題」、シリーズ「入退院時の患者支援について」「患者で起こす薬剤師革命」を掲載した。

また、本会が令和5年度に実施した「薬剤師のための予防接種研修会」の様子を紙面で報告することで、本会の活動状況を広く周知した。

その他の企画として新シリーズ「藤井もとゆきの国政メモワール」、好評の既シリーズ「海外での大学院生活と現地での暮らし」「音楽家と病気」「我が大学が誇る施設」など、多岐にわたる話題を取り上げ、本会会員に提供した。

また、都薬会員用ホームページに「都薬雑誌バックナンバー」第45巻(2023年発行)を掲載し、45年間分のバックナンバーを会員が閲覧し活用することを可能とした。

(2) 『医薬品情報』・『DI レター』の発行

東京都からの委託を受け、令和5年7月～令和6年3月まで医薬品情報 No. 1～5、DI レター No. 1～4 を各々隔月に発行した。医薬品情報では主に医薬品の使用上の注意改訂、副作用について解説したほか、今年度は、「薬剤師が知っておきたい病態について(精神疾患編)」として第1～8回(不安症関連、統合失調症、ADHD、双極性障害、認知症、うつ病、アルコール依存、不眠症)を浦田実、多田照生、村尾昌美、渡邊菜保子、渡邊衡一郎 杏林大学医学部 精神神経科学教室の先生方に執筆いただいた原稿を掲載した。また、DI レターには医薬品適正使用情報等を掲載した。

(3) 調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3-1 (3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)

7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

(1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

「薬と健康の週間」用資料、医薬品情報、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

(2) 医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成 27 年 7 月にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持、管理、今後の在り方の検討

(7. (2) 「医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理」の項を参照)

(4) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

令和 5 年 10 月調剤分を対象にした第 15 回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 56.3%、調剤数量は同 50.5%、薬剤料は同 18.9%であった。

②汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 99.8%、レバミピド錠 73.6%、アムロジピン錠 87.1%、ロキソプロフェン Na 錠 82.3%、ファモチジン錠 83.5%、カルボシステイン錠 82.4%、テプレノンカプセル 65.8%、ランソプラゾール錠・カプセル 90.9%、トラネキサム酸錠・カプセル 79.8%、エチゾラム錠 61.8%、カルボシステインシロップ 66.1%、カルボシステインドライシロップ 66.0%、ツロブテロールテープ 63.8%であった。

(5) 医薬品・情報管理センターを核とした医薬品（一般用含む）分譲業務の検討 管理センターの医薬品販売の利用状況は、【資料 5】のとおりであった。

(6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成 25 年度に医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を各センターと取り交わした。現在は、地区薬

剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認及び保管等の支援を行っている。

8. 「薬事衛生・公衆衛生」事業

(1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発とお薬相談会の実施

(8. (7) 「『薬と健康の週間』事業の実施」の項を参照)

(2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、「薬事関係法規教本 2023 年追補版」、自主点検表を作成し、地区薬剤師会を通じて各会員薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、薬事関係法規教本や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

開催日時：令和 5 年 9 月 9 日(土)18:00～20:00

開催場所：TKP 御茶ノ水会議室大ホール

受講者：213 名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 最近の薬務行政について 東京都保健医療局健康安全部 薬事監視担当課長 渡辺 大介
3. 薬事関係法規教本 2023 年追補版について 東京都薬剤師会 薬事委員会 副委員長 佐藤 むつみ
4. 自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 三溝 学
5. 緊急自己点検について 東京都薬剤師会 常務理事 和田 早也乃
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

昨年の「2022 年版」発行以降の改正点についてまとめ、関係法令の周知を行った。自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。

令和 4 年度の医薬品販売制度実態把握調査の結果を受けて、日本薬剤師会から緊急自己点検の実施依頼があり、自主点検表とは別に Google フォームを準備し、集計結果を報告した。

(3) 薬機法の定着のための研修会等の実施

(8. (2) 「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)

(4) 薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会を実施した。64名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、職業能力開発施設等において149回の講習会が実施され、延べ16,955人が受講した。

今年度実施報告数は、コロナ禍前の予定実施回数には及ばず、昨年度実施報告数とほぼ同数となった。これは、近年のオーバードーズ等を含む薬物乱用防止啓発活動において、学校薬剤師に対する期待が高まっていることから、学校薬剤師による各担当校における薬物乱用防止教室の実施数が増加したものと考えられる。

なお、本会に実施報告があった会員学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数を合わせると169回の講習会が実施されており、延べ18,116人が受講したこととなる。

[令和5年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数]

	担当校以外で本会会員が実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数(回)	149	20	169
受講者人数(人)	16,955	1,161	18,116

*64名の薬物専門講師等を含む本会会員薬剤師のうち13名と、学校薬剤師3名から担当校で実施した薬物乱用防止講習会について報告いただいた

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす34名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は令和5年10月1日現在、87名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都不正大麻・けし撲滅運動啓発用ポスター」「東京都『ダメ。ゼッタイ。』普及運動啓発用ポスター・リーフレット」「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動啓発用ポスター・パンフレット」「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動 東京大会ポスター・チラシ」「薬物乱用防止啓発用リーフレット『健康に生きる 恐ろしい薬物乱用』」等を各地区及び職域薬剤師会に配布した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」フラッパー型啓発資材、並びに中学生及び高校生を対象としたフラッパー型啓発資材「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！大麻編」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師、東京都薬物乱用防止推進協議会等に頒布し、薬物乱用防止講習会等で広く活用された。

(5) 禁煙及び受動喫煙対策の周知徹底と啓発

本会では、2011年10月より薬剤師の生涯教育の一環として、禁煙支援薬剤師認定制度をスタートさせ、禁煙指導の意義を理解し、禁煙支援・指導方法の正しい知識を持ち、喫煙者へ禁煙相談、禁煙プログラムを適切に提供できる認定禁煙支援薬剤師を養成し、認定禁煙支援薬剤師等を通して禁煙活動に取り組んでいる(2-1(2)「禁煙支援薬剤師認定制度の推進」の項を参照)。

また喫煙は本人だけでなく、周囲にいる人にとってもさまざまな疾病の遠因となっていることを都民に正しく伝達することで、都民に対する禁煙及び受動喫煙対策に係る普及啓発活動に協力した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とした受動喫煙に関するフラップ型啓発資材「受動喫煙にNO!!」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、会員学校薬剤師による薬物乱用防止講習会やくすり教育等で広く活用された。

(6) 健康日本21(第二次)に基づいた、健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の具体的な計画である健康日本21(第二次)に基づき、厚生労働省が実施する国民一人ひとりが食生活改善の重要性を認識し、理解を深め、日常生活での実践を促進すること等を目的とした食生活改善普及運動の推進に取り組んでいくよう地区及び職域薬剤師会への周知に努めた。さらに食生活改善普及運動と同時期に実施された健康増進普及月間についても地区及び職域薬剤師会へ周知した。

また、本会公衆衛生委員会では健康日本21(第二次)の中間報告で目標を達成できていない項目について、薬局薬剤師が関わることのできる生活習慣の改善や、重症化予防に貢献できる内容を取りあげ、地区薬剤師会及び個々の会員が、地域住民とのコミュニケーションを図るツールとして活用するための「公衆衛生に関するQ&A～健康サポート編～」を作成し、全会員、東京都関係各所、日本薬剤師会、各都道府県薬剤師会等に配布した。

(7) 『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」(10月17日～23日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と連携し、都内48地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)—1 薬局・店舗1枚

- 「薬の無料相談」(ポスター) —1 会場 2 枚
- 「薬との上手なつきあい方」 —1 会場 100 部(1 薬局・店舗 5 部)
- 「知っておきたい薬の知識」 —1 会場 200 部(1 薬局・店舗 3 部)
- 「東京都薬局機能情報提供システム t-薬局いんぷお」—1 会場 300 枚(1 薬局・店舗 2 部)
- 「公衆衛生に関する Q&A ～健康サポート編～」 —1 会場 30 冊
- 「薬の相談記録」(個票) —1 会場 100 枚
- 「健康食品 情報共有シート」 —1 会場 50 枚
- 「健康食品・サプリメントの摂取によって『こんな悩み抱えていませんか?』」
—1 会場 200 部
- 「もうお持ちですか? かかりつけ薬剤師・薬局 ご存じですか? 健康サポート薬局」
—1 会場 300 枚(1 薬局・店舗 2 部)
- 「医薬品医療機器総合機構ポスター」 —1 薬局・店舗 1 枚
- 「医薬品副作用救済制度ポスター」 —1 薬局・店舗 1 枚
- 「医薬品副作用救済制度」 —1 薬局・店舗 10 枚
- 「患者副作用報告」 —1 薬局・店舗 1 枚
- 「健康食品クリアファイル」 —1 会場 40 枚
- 「スポーツをがんばっている人 ご存じですか? 意図しないドーピング」
—1 会場 100 部
- 「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」 —1 会場 100 枚
- 「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(ポスター) —1 薬局・店舗 1 枚

【薬の街頭相談所の開設】

48 地区において街頭相談所等を開設し、薬事に関する無料相談等を実施し、都民の薬に対する関心に応え、薬の適正使用について広く普及啓発を行った。また、介護相談や薬物乱用防止、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。

☆街頭相談所開設場所(カッコ内は地区薬剤師会名)

千代田区、日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砦)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)、稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、小金井市、国分寺市、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、町田市、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、東村山市(西武)、清瀬市(西武)

(8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて会員薬局に広報用ポスターの掲示依頼及び広報動画の活用依頼(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)をするとともに、会員薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。

また、東京都からの協力依頼を受け、近年の自殺者数の増加対策として、自殺者数及び自殺死亡率の減少を目的とした東京都実施の「自殺対策における専門的人材育成事業(医療系専門職向けゲートキーパー研修)」の周知に努めた。

(9) スポーツファーマシスト、薬剤師のアンチ・ドーピング対応の推進と、各種スポーツ団体とのアンチ・ドーピング活動の協力推進

東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受け、「意図しないドーピング(うっかりドーピング)」を防止するために「アンチ・ドーピング講習会」の開催、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」の配付を行った。

本年度の「アンチ・ドーピング活動 地区薬剤師会指導者講習会」は、各地区薬剤師会代表者と情報共有をすることを目的に開催した。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を開催し、本年度は全国から205名のスポーツファーマシストの参加を得た。

「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2023年版」は地区薬剤師会を通して全会員薬局に配付した。

その他、ドーピング防止啓発活動の資材として一般市民向け啓発用パンフレットを作成し、薬と健康の週間で配布したほか、本会ホームページ掲載の「意図しないドーピング(うっかりドーピング)を防止しよう」を最新の情報に更新した。

【令和5年度 アンチ・ドーピング活動 地区薬剤師会指導者講習会】

開催日時：令和5年11月11日(土) 18:00~20:10

開催場所：日本教育会館 7階 中会議室

受講者：58名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 禁止物質の確認方法 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 副委員長 川田 真二郎
3. 治療使用特例(TUE)申請に関して

東京保健医療専門職大学 教授 草野 修輔

4. 青梅マラソン大会における西多摩薬剤師会のアンチ・ドーピング活動
西多摩薬剤師会 青梅薬剤センター薬局 佐藤 浩子
5. まとめ 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

開催日時：令和6年2月25日（日） 13:00～16:00

開催場所：一橋大学 一橋講堂

受講者：205名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. アンチ・ドーピングに関する最新の情報
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸
3. 2024年禁止表と情報提供時の注意点
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 医療・科学部 部長 鈴木 智弓
4. 対談形式 アスリートの体調管理について
株式会社Rebolt 代表 サッカー選手 下山田 志帆・
東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟・
東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員 砂本 沙織
5. パネルディスカッション
司会：東京都薬剤師会アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟
6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

(10) 感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策の推進と協力

新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数の増加及び季節性インフルエンザの同時流行に備え、「新型コロナウイルス抗原定性検査キット」の取扱薬局等をリスト化し、その取扱状況を一元的に周知できるよう随時修正したリストを厚生労働省ホームページ掲載用として厚生労働省へ提出した。

また、東京都アレルギー疾患対策検討委員会では、当会役員が委員となり活動に協力し、東京都薬剤師会 生涯学修プログラムでは、代表的な疾患（Common disease）における薬物療法についての実践スキルアップを目指している。

9. 組織強化対策

(1) 会費のあり方を含めた会員増加策の検討

会員数が増加傾向に転じない現状において、本会の将来を見据えて適正と思える会

費額と、会費の構成のあり方について検討を行った。また、本会の活動の広報等を目的に、平成23年3月に運用を開始した「とやく携帯メルマガ」を令和6年3月29日(通算3129号)で廃刊し、次年度に情報発信媒体をX(旧Twitter)に移行することとした。

(2) 公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに基づいて会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和5年6月の通常総会終了を以て任期満了となる役員について、役員選考規程及び会長立候補・副会長候補者の選出に関する規則に基づき、役員選挙管理委員会が統括して、次期会長候補者1名、次期副会長候補者4名を含む理事25名と監事2名を、第103回通常総会(令和5年6月17日開催)において選出、同日開催した第1回理事会において、当選した理事の中から、会長1名、副会長4名、常務理事8名を選任した。

また、2年ごと7月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、令和5年6月に選挙区ごとに選挙が実施され、7月13日付けにて、代議員137名、予備代議員130名を選出した。

(3) 会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種OA機器の整備・拡充を行った。

(4) 都薬生涯研修認定制度の利便性の向上

本会生涯研修認定制度の利便性の向上に向け、現在シールとして発行している研修認定単位の電子化について、複数の業者を招き検討を進めた。認定単位の電子化については、高額なシステム開発費用が発生すること等が懸念されたことから、関東近県の薬剤師会において、(公社)薬剤師認定制度認証機構の認証を取得し既に運用を開始されている(公社)神奈川県薬剤師会、また今後同制度の運用を予定・検討されている(一社)埼玉県薬剤師会、(一社)千葉県薬剤師会と、それぞれが抱える現状の課題や将来に向けた協力体制の構築等について、令和5年11月24日に意見交換会を開催した。その結果、研修認定単位の電子化等が共通の課題として認められたことから、それぞれの薬剤師会の賛同を得て「関東・東京ブロック生涯研修認定制度協議会(仮称)」を設立し、継続的に共通の課題の解決に向け協議を続けることとした。

(5) インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

新型コロナウイルス感染症対策を含め、会議のあり方について検討を重ね、Web等を用いて地区及び職域薬剤師会等の会議が開催できるよう対応を行った。また、平成25年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールやGoogleフォームを用いて

会議やアンケート情報収集にも活用している。さらに、平成27年4月1日にリニューアルしたホームページについても、毎月更新を行い、理事会、地区及び職域薬剤師会会長会で報告し、最新の情報発信に努めている。

(6) 職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援
各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

(7) 学校薬剤師活動への支援と日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議の実施

日本薬剤師会学校薬剤師部会事業等の周知とブロック内の情報共有及び意見交換を目的とした「学校薬剤師ブロック連絡会議」の開催・運営について、日本薬剤師会からの協力依頼を受け、「日本薬剤師会 学校薬剤師東京ブロック連絡会議」を下記のとおり開催し、日本薬剤師会学校薬剤師部会と各地区薬剤師会の学校薬剤師担当者との情報共有及び東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議を行った。

また、東京ブロック連絡会議と同日に、学校薬剤師活動の支援を目的とする、東京都内全学校薬剤師を対象とした「学校薬剤師研修会」を下記の通り開催した。今年度の研修会では近年、社会的問題となっている若年層に広がる一般用医薬品等のオーバードーズによる依存等に着目し、多様な依存の現状や、それに対する取組について解説した。加えて、都内全ての学校薬剤師が格差のない統一した活動を実施することを目的に、本会が調査を実施している「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」において、令和4年度に実施した「照度検査・キシレン検査」等の調査結果について報告した。調査結果は【資料6】のとおりである。

なお、今年度調査では、コロナ禍による長期にわたるプールの閉鎖等で引き起こされた問題等を抽出することを目的に、「水泳プールの水質及び施設・設備の衛生状態」に係る検査状況、並びに各学校における薬物乱用防止教室の実施状況について各地区薬剤師会に調査を依頼した。

【学校薬剤師東京ブロック連絡会議】

開催日時：令和6年1月21日(日) 14:00～15:20

開催場所：連合会館 2階 大会議室(オンライン会議併用)

出席者：各地区薬剤師会 学校薬剤師担当役員・学校薬剤師活動に関して指導的立場にある本会会員学校薬剤師 62名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典
3. 学校薬剤師部会活動の現状報告と課題等について
～学校薬剤師活動の充実等に向けて～

日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 富永 孝治

4. 東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議

【学校薬剤師研修会】

開催日時：令和6年1月21日(日) 16:00～17:50

開催方法：連合会館 2階 大会議室

受講者：136名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 現代の様々な依存 ～オーバードーズ等による依存とその対応～
東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト 副参事研究員 井手 聡一郎
3. 「令和4年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」
キシレン検査・照度検査 結果報告 東京都薬剤師会 理事 藤尾 絵美
4. 質疑応答
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 小野 稔

(8) 講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

令和5年度は、活動テーマを「未来を創る生涯学修に取り組もう～見せよう『薬剤師』『地域薬局』の底力～」とした。このテーマに沿って、実施に関わる各部署の役割を明確にし、企画立案、会場・講師手配、参加者募集等を行い、講習会・研修会を実施した。各部署の担当者及び役員が定期的に、講習会や研修会の進行状況や課題、改善点などを共有する等連携強化を図った。

10. 災害時における医療救護対策

(1) 災害時等の医療支援体制への協力

令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方震源とする地震が発生した。本会では、高橋会長を本部長とする「能登半島地震災害対策本部」を立ち上げ、1月10日より3月5日までの間16班延べ47名を石川県へ派遣し、支援活動を展開した。

また、東京都においては、都内での大規模災害発生時における医療機能の円滑な確保のため、平成24年度より都内12ヶ所に二次保健医療圏を単位とした「地域災害医療連携会議」を設置し、この連携会議に地区薬剤師会とともに当会から該当地区の役員が各々出席した。

(2) 災害時医療救護に係る「災害時薬事活動リーダー」(薬事コーディネーター)の養成研修会の開催

東京都の災害対策の方針、災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と医薬品卸売販売業者等との多職種連携、災害医療の特殊性等を理解し、災害薬事コー

ディネーターとして地区での災害医療に貢献できる薬剤師リーダーの知識を習得することを目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回実施した。当該研修では東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会にも参加を要請し、また地区ごとにグループを作成し、より地区の実情を見据えた図上訓練を行った。

【第1回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和5年11月12日(日) 9:00～17:00

開催場所：AP 日本橋

参加者：35名(内、地区薬剤師会15名、東京都病院薬剤師会10名、
東京医薬品卸業協会10名)

参加地区：武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、狛江市、小金井市、国分寺市

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 東京都の災害医療体制について 東京都保健医療局医療政策部災害医療課 千葉 清隆
3. 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～ 東京都保健医療局健康安全部薬務課 鎌田 智之
4. 薬剤師会・班の活動について 東京都薬剤師会 理事 三溝 学
5. 災害派遣における自衛隊の活動について 防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室
6. 図上訓練 (DIG・災害想定 of 俯瞰) 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一
7. 図上訓練 (薬事関係者の連携) 東京都医師会 矢野 正雄
8. 図上訓練総括
9. 修了証授与・閉会 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

【第2回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和6年2月4日(日) 9:00～17:00

開催場所：AP 日本橋

参加者：35名(内、地区薬剤師会15名、東京都病院薬剤師会10名、
東京医薬品卸業協会10名)

参加地区：豊島区、北区、板橋区、練馬区、西武地区(小平市、東村山市、清瀬市、
東久留米市、西東京市)

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 東京都の災害医療体制について

東京都保健医療局医療政策部災害医療課 上村 淳司

3. 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～

東京都保健医療局健康安全部薬務課 鎌田 智之

4. 薬剤師会・薬剤師班の活動について 東京都薬剤師会 理事 三溝 学

5. 東部方面隊における災害派遣活動

防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室

6. 図上訓練 (DIG・災害想定 of 俯瞰) 日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一

7. 図上訓練 (薬事関係者の連携) 東京都医師会 大桃 丈知

8. 図上訓練総括

9. 修了証授与・閉会 東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

(3) 東京都地域防災計画(震災編)に係る新規体制整備

令和5年度東京都総務局総合防災部では、震災における新たな被害想定で明らかになった震災リスクから、都民の命とくらしを確実に守るため、防災計画の指針となる地域防災計画(震災編)の修正を行うこととした。これに際して、東京都より、災害時における医薬品の管理や提供体制について、現状の把握や改善点の提案が求められた。本会では、東京都の総合防災部のほか、関連団体と連携をはかり、災害時における医薬品の提供体制の整備や災害時の医療支援等の情報提供等に関して、様々な意見具申を行った。

(4) 防災訓練への参加協力

東京都では、多摩地区を震源とする非常に強い地震が発生し、都内の広い範囲で震度6弱以上を記録した想定で、令和5年9月3日(日)に「令和5年度東京都・東村山市合同総合防災訓練」を実施した。当訓練において、東京都保健医療局健康安全部では「医療救護活動訓練」を行った。本会は災害対策基本法に基づく指定地方公共機関となっており、当会役員、東村山市より薬剤師4班を班編成し、訓練参加した。訓練会場の東村山市役所等において、災害薬事センター、救護所エリアを設置し、医薬品等供給訓練(医薬品等供給要請訓練・医薬品搬入訓練)、調剤・服薬指導訓練、OTC供給訓練、及びトリアージ訓練に参加した。

(5) 大災害時における薬局BCP(事業継続計画)の活用支援

当会ホームページ上に薬局BCP(業務継続計画)の作成用ひな型を掲載し、災害発生時の薬剤師の活動、限られた資源で営業の継続、早期に再開する基盤となるよう支援を行った。

(6) 災害時等における地区薬剤師会との連携体制の整備

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成28年度に契約した総合警備保障株

式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」を利用した電子メールでの連絡システムの活用を推進した。令和5年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解促進に努め、使用方法及び加入の薦め及び活用方法の説明を行い、予行演習を兼ねたテスト配信を行い、災害時の備えとした。

(7) 東京都国民保護計画への体制整備

役員・職員連絡網についてインターネット網での電子メールを利用した、総合警備保障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」の導入、発信・連絡試験を実施した。

(8) 感染症対策を含めた、「新型インフルエンザ等対策」の推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「薬局コロナウイルス抗原定性検査キット（以下、「検査キット」）取扱い薬局等のリスト化に伴う情報提供」等について会員に周知した。

また、東京都からの委託を受け、ワクチン接種会場でワクチンのシリンジへの分注、薬剤管理、技術指導及びワクチン接種に係る相談対応等について必要な指導・助言を行うため、本会役員が複数会場の巡回視察を行い、令和5年4月から令和6年3月までの間に延べ193名が出動した。

感染拡大防止対策として国が実施した、患者宅等に薬剤を配送又は薬局の従事者が届けた場合の費用を補助するための「薬局における薬剤交付支援事業」の請求等の事業に関する業務を行い、令和5年3月1日から令和6年2月末日の間に27薬局から154件の請求があった。

今後、新興感染症が発生した場合、迅速にワクチン接種環境を整えることが重要である。昨今の社会情勢に鑑み、薬剤師によるワクチン接種が必要になった際には、即座に対応することができるよう、薬剤師における予防接種研修プログラムが日本薬剤師会によって策定された。本会では、今年度、日薬の研修プログラムに皮下注射に関する講義及び実習を追加した下記内容にて研修会を開催し、延べ47名に受講証明書を発行した。

【令和5年度 薬剤師のための予防接種研修会】

開催日時：令和6年1月21日（日） A班9:30～13:30・B班11:00～15:15

開催場所：杏林大学三鷹キャンパス 看護・医学教育研究棟1階

参加者：計36名（内、A班26名、B班10名）

※ 役員等を含む修了証配付47名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. オリエンテーション 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
3. 講義（動画視聴）及びポストテスト

- 1) 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンに関する基礎知識
- 2) 緊急時対応の基礎
- 3) 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に必要な解剖学の基礎知識
- 4-1) 医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンを安全に接種するための注意とポイント
- 4-2) 新型コロナワクチン より安全な新しい筋注の方法 2021年3月版
- 5) 新型コロナワクチン接種時のアナフィラキシーへの対応【医療者向け】
- 6) 皮下注射の実施方法 [看護 roo! 動画でわかる看護技術]
4. 実技研修
 - 1) オリエンテーション 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充
 - 2) ワクチン接種の全体の流れについて
 - 3) ワクチン接種における安全配慮
 - 4) 筋肉内注射及び皮下注射の実際 杏林大学医学部小児科学教室 准教授 保崎 明
 - 5) シミュレーターを用いた実技 全講師
 - 6) 質疑応答
 - 7) 修了証授与
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

1 1. 会員奉仕事業

(1) 学術出版物等の斡旋

令和5年度中に約4,000冊、会員価格にして約1,930万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋数は「今日の治療薬2024」、「保険薬事典プラス 令和6年4月版」、「治療薬マニュアル2024」、「薬価基準点数早見表 令和6年4月版」などであった。また、各種研修会に出版社に出展を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

(2) 制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに應對し資料を送付するなどの紹介を行った。

(3) 企業年金保険等及びがん保険の斡旋

会員の厚生事業として、企業年金保険(明治安田生命・ジブラルタル生命)は、令和5年12月の給付金支払いをもって全ての団体契約を終了した。また、がん保険(アフラック、令和5年3月末日現在の加入37件)の団体契約を継続した。

(4) 薬剤師賠償責任保険制度等の周知と新たな加入促進

日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険並びにサイバー保険、アンチ・ドーピング活動保険への加入について、地区及び職域薬剤師会会長会及び本会ホームページへの掲載により会員に周知を図り加入を推奨した。

(5) 薬剤師資格証の取得に関する業務の推進

日薬認証局により薬剤師資格証(以下 HPKI カード)の発行申請がされ、日本薬剤師会と東京都薬剤師会は連携して、発行された HPKI カードを申請者本人に交付する際の一連の業務協力を継続した。

1 2. その他

(1) 日本薬剤師会の諸施策に対する対応及び提言

医療モールの取扱いについて、生成 AI の発展に伴ったその活用の在り方、経口抗ウイルス薬の処方に対応可能な薬局のリスト化について、薬局製剤の推進、0 類医薬品の提言後の対応、オンライン診療を推進するにあたって、実務家教員(みなし教員)について、夜間・休日の医薬品提供体制の構築について、医療用医薬品の過剰な包装について、広告宣伝や広報の仕方について、日薬発出文書の遅配信、e お薬手帳 3.0 について、濫用の恐れがある医薬品とリスク区分の整理について(オーバードーズ問題を含む)、日本薬剤師会の総会において意見具申するとともに、日本薬剤師会が実施する事業に協力した。

(2) 日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各薬剤師会)の連携を強化するため、以下の関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開催にあたり日本薬剤師会の事業について、意見交換を行う等、連携の強化を図った。

第 1 回：令和 5 年 5 月 28 日(主催：山梨県薬剤師会)

第 2 回：令和 6 年 2 月 4 日(主催：埼玉県薬剤師会)

(3) (一社)東京都病院薬剤師会との連携の更なる強化

本会が事務局を担当した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(2 回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計 24 名、及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ(1 回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計 23 名の研修など、相互協力を行った(2-1. (6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項参照)。

地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業「無菌調製技能習得研修会」においては、実習サポートのため、東京都病院薬剤師会から出講した病院薬剤師が実習講師として受講者の指導を行った。また、令和 3 年度から開始された「薬業連携推

進事業」では、今年度、東京都病院薬剤師会所属の23施設の薬剤部(科)の協力のもと、事業が展開された。今年度事業の評価・検討を行う「薬薬連携推進関係者連絡会」開催にあたっては、東京都病院薬剤師会から推薦された委員3名が参加し、本会及び東京都医師会の委員とともに今後の事業展開に向けて意見交換を行った(2-3(4)「地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備」の項を参照)。

なお、令和3年度より、在宅における「がん領域の患者安全管理」を目的とし、東京都がん診療連携協議会研修部会薬剤師小委員会、東京都病院薬剤師会、東京都薬剤師会による3団体合同ワーキンググループに協力した。

また、昨今の医療機関並びに薬局を取り巻く状況が慌ただしく変化する中、病院薬剤師や薬局薬剤師に関する昨今の課題や情報の共有を目的として、令和5年11月30日(木)に東京都病院薬剤師会役員と本会役員による懇談の場を設け意見交換を行った。

(4) (一財) 東京都学校保健会・(一社) 東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に対し意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

(5) 東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都保険医療局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

(6) (公社) 東京都医師会・(公社) 東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を図った。

(7) (公財) 日本薬剤師研修センター事業への対応

東京都薬剤師研修協議会として、(公財) 日本薬剤師研修センター(以下、研修センター)が開発した薬剤師研修・認定電子システム(PECS)に関する様々な問い合わせに対応し、また、研修センターの研修認定薬剤師制度の変更点等を広く会員に周知するなど、同センターが推進する薬剤師生涯教育事業に協力した。

その他、研修センターの求めに応じ、同センターが主催する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に東京会場の試験監督として役員2名を派遣した。

(8) (一社) 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

(一社) 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた充実した実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運

営する各種事業(認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等)に対する支援・協力を行った(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項及び2-2(4)「実務実習受入れ態勢の整備」の項を参照)。

(9) 都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育6年制課程における充実した長期実務実習の適切な実施への支援・協力を要請するとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、「地域薬局への薬学生就職対応事業」についても相互協力を行った(12.(13)「地域薬局への薬学生就職対応事業の実施」の項を参照)。

(10) 各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

日本薬剤師会をはじめ、(公社)東京都医師会、(公社)東京都歯科医師会、(公社)東京都看護協会、東京都薬剤師国民健康保険組合、(一社)東京医薬品卸業協会、(公社)東京医薬品工業協会、(公社)東京都医薬品登録販売者協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

また、昭和52年に臺北市薬師公會と姉妹会協定を締結し、毎年相互に訪問し、学術交流会等を通じて親善をはかり、薬剤師の技能の理解を深めている。令和2年初頭より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、双方の交流は一時中断していたが、令和4年11月、臺北市薬師公會より張文静理事長をはじめ6名が来日し、台北駐日経済文化代表処の李世丙氏同席のもと、姉妹会締結更新の調印式を執り行った。

令和5年5月には、臺北を訪問し、双方の災害対策について意見交換を行うとともに、現地の薬局や医薬品メーカーを視察し、学術交流を図った。

(11) 都薬会館に関する検討

都薬会館横に設置の自動販売機について、地面に陥没が生じたため令和5年6月に緊急補修工事を行った。その後周囲の地盤状況が不明のため設置しておくのは危険と判断し、令和5年8月に4台中2台を撤去した。

(12) 会員サービスに対応した事務局機能の充実と質的向上

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員ならば年会費が無料となるVISAゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成20年11月から会員に対して斡旋し、令和6年3月末日現在で233名の会員に対して308枚が発行されている。

(13) 地域薬局への薬学生就職対応事業の実施

平成30年度より実施している本事業は、令和5年度より「次世代薬剤師育成ワーキ

ンググループ」と名称を変更し(旧：地域薬局への薬学生就職対応事業ワーキンググループ)、令和5年度は、帝京大学(オンライン)、昭和大学及び昭和薬科大学より学内企業セミナーへの参画の要請を受け、3大学合計17名の学生に、東京都薬剤師会として、地域薬局の取り組みや、在宅療養の実情、就職先として地域薬局を選択する際の魅力を学生に伝え、参加した学生からの多くの質問や相談に応じた。

(14) 共済制度の運営

日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについて事務を代行した。

(令和6年度部員27名)

令和5年度 各賞受賞者 (敬称略)

叙 勲

瑞宝双光章 (秋) 阿久津 七光

瑞宝双光章 (秋) 佐藤 裕子

褒 章

藍綬褒章 (春) 上野 浩男

藍綬褒章 (秋) 高橋 正夫

厚生労働大臣表彰

[薬事功劳]

山田 純一 佐伯 孝英

東京都知事表彰

[福祉・医療・衛生功劳]

秦 千津子 西澤 啓子 伊佐間 茂樹

昼川 美晴 譲原 はるみ

東京都知事感謝状

[薬事関係功劳]

外山 和宏 富田 勝司 高野 和則

伊澤 慶彦 佐々木 武志

東京都知事感謝状

[薬物乱用防止関係功劳]

野々村 眞紗子 原山 眞理子

東京都教育委員会表彰

[健康づくり功劳]

佐久間 悟 富田 祐紀子 菊池 真由美

桐生 好明 村田 敬子 神吉 恵子

木村 厚雄 中島 章博 前田 美紀子

萩原 明

日本薬剤師会功劳賞

上野 浩男

東京都薬剤師会功劳賞

菅野 佐百合 佐藤 文則 鈴木 雄三

関谷 恒子 高橋 裕久子 松永 みゆき

鈴木 鉄也 中里 庸子 伊藤 はるみ

星野 静子

令和5年度 物故会員 (敬称略)
令和5年4月1日～令和6年3月31日

松 村 善 一 (千代田区) 加 藤 健 次 郎 (京 橋)

渡 部 達 (玉川砦) 平 田 弁 次 (渋谷区)

宮 沢 伸 江 (杉並区) 峯 田 英 代 (練馬区)

渡 辺 み ゆ き (練馬区) 金 子 弘 志 (足立区)

川 上 武 雄 (葛飾区) 内 宮 義 郎 (西多摩)

清 水 守 信 (北多摩) 永 井 伸 光 (直 扱)

令和6年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地区 薬剤師会	現在会員数			
	A	B	賛助	合計
千代田区	82	15	0	97
日本橋	31	10	0	41
京橋	45	8	3	56
港区	117	22	2	141
新宿区	144	44	0	188
文京区	105	26	0	131
下谷	45	13	0	58
浅草	61	18	0	79
墨田区	87	23	0	110
江東区	115	42	1	158
品川区	155	55	2	212
目黒区	93	24	1	118
大田区	221	87	1	309
世田谷	114	29	3	146
玉川砦	117	41	1	159
渋谷区	88	18	1	107
中野区	109	26	1	136
杉並区	178	75	0	253
豊島区	115	16	2	133
北区	128	27	0	155
荒川区	71	12	0	83
板橋区	200	64	0	264
練馬区	197	75	2	274
足立区	179	47	0	226
葛飾区	156	64	2	222
江戸川区	176	28	0	204

地区薬剤師会	現在会員数			
西多摩	108	50	0	158
八王子市	161	173	0	334
南多摩	130	69	1	200
町田市	108	57	0	165
府中市	81	2	1	84
調布市	77	11	0	88
狛江市	25	6	0	31
小金井市	35	7	0	42
国分寺市	24	4	0	28
北多摩	150	39	0	189
武蔵野市	61	35	1	97
三鷹市	42	10	2	54
西武	216	64	0	280
中計	4,347	1,436	27	5,810
職域 薬剤師会	現在会員数			
	A	B	賛助	合計
病院	0	170	0	170
都立病院 施設	0	25	0	25
大正製薬	0	4	0	4
佐藤製薬	0	17	0	17
エスエス製薬	0	0	0	0
小計	0	216	0	216
直扱	37	562	18	617
合計	4,384	2,214	45	6,643

令和5年度 地区薬剤師研修会受講者数

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
千代田区	千代田区	20	22
中央区	日本橋	15	11
	京橋	15	8
港区	港区	27	27
新宿区	新宿区	37	30
文京区	文京区	50	56
台東区	下谷	25	26
	浅草	31	20
墨田区	墨田区	27	31
江東区	江東区	28	27
品川区	品川区	147	121
目黒区	目黒区	47	26
大田区	大田区	61	67
世田谷区	世田谷	46	59
	玉川砦	55	68
渋谷区	渋谷区	28	26
中野区	中野区	71	29
杉並区	杉並区	83	87

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
豊島区	豊島区	58	68
北区	北区	35	32
荒川区	荒川区	36	28
板橋区	板橋区	98	96
練馬区	練馬区	124	131
足立区	足立区	83	83
葛飾区	葛飾区	72	78
江戸川区	江戸川区	62	81
多摩第一	小金井市	10	14
	国分寺市	8	5
	武蔵野市	23	27
	三鷹市	25	15
多摩第二	府中市	23	23
	調布市	15	25
	狛江市	11	11
多摩第三	北多摩	70	62
	西多摩	46	34
多摩第四	八王子市	106	105
	南多摩	59	49
	町田市	29	26
多摩第五	西武	67	65

第1回 第2回

合計		1,873	1,799
----	--	-------	-------

令和5年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区実施一覧

	1,540,000 28			2,300,000 23			2,800,000 28			3,000,000 30			
	①地域連携研修会			②無菌調剤室設置施設改築地研修			③地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携連絡会			地域包括支援センターと連携した住民向け講習会			
	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	
1	千代田区												
2	日本橋	10月30日	ハイブリッド	28名						9月30日	中央区役所6階大会議室	40名	
3	京橋	8月29日	中央区立入松町区民館	28名									
4	港区						8月16日	神明いさぎプラザ資金室	46名	7月20日	赤坂区民センター4階 第一会議室	16名	
5	新宿区												
6	文京区						10月15日	文京区立本郷台中学校	48名	10月15日	文京区立本郷台中学校	70名	
7	下谷	11月9日	永寿総合病院	45名	3月12日	永寿総合病院	30名	10月10日	台東区役所1002会議室	34名			
8	浅草	11月9日	永寿総合病院	39名	3月12日	Zoom配信 永寿総合病院	30名						
9	墨田区	3月19日	墨田区薬剤師会事務所 Zoom開催	41名	10月14日	墨田区薬剤師会事務所	17名	3月26日	墨田区薬剤師会事務所 Zoom開催	17名	6~8月 計	8回開催	129名
10	江東区				3月24日	社とどけ薬局江東店	6名						
11	品川				3月2日	品川区薬剤師会 協議管理センター	10名	3月14日	社会福祉法人さくら会	15名			
12	目黒区	9月14日	日本赤十字社医療センター	41名									
13	大田区									3月16日	大田区民ホール アプリコ	140名	
14	世田谷	11月28日	ネット開催 集合しりとりイベントの開催	100名			2月20日	オンライン研修および動画視聴研修	125名	10月11日	松沢まちづくりセンター 3階	25名	
15	玉川台	7月25日	Zoom	77名	3月9日	日産厚生会玉川病院 会議室 無観戦観覧	10名	12月7日	ゲイサービスセンター豊ゆう	26名	3月16日	成城ホール	140名
16	渋谷区						2月16日	渋谷区文化総合センター大和田	38名				
17	中野区	9月20日	中野セントラルパーク(フレスコホール4)	35名	11月26日	総合病院	6名	11月11日	帝京平成大学中野キャンパス	50名	11月12日	帝京平成大学中野キャンパス	45人
18	杉並区	1月17日	杉並区立産業高工芸会館	28名	11月11日	医療法人財団医療センター	10名	3月16日	医療ワイルド会議室	23名	1月26日	和泉水産地区センター	17名
19	豊島区	9月21日	豊島区立中央公民館 会議室	73名									
20	北区						7月2日	北とびあ13階 飛鳥ホール	150名	11月7日	北とびあ 7階 第1研修室	49名	
							10月26日	北信科医研会館ホール	48名				
							11月2日	北とびあスカイホール	45名				
							11月8日	嵐野川会館大ホール	39名				
							2月4日	赤羽会館4階大ホール	97名				
21	荒川区									10月3日	アクト21地下ホール	80名	
22	板橋区	10月22日	ZOOMによる開催	94名	3月3日 3月17日	板橋区薬剤師会管理センター-薬局	5名	8月19日	板橋区薬剤師会管理センター-3階302会議室	64名	11月4日	板橋区グリーンホール	多岐
23	練馬区	3月13日	Web形式 (Zoom)	43名	3月2日	練馬区薬剤師会会館	5名	2月28日	Web形式 (Zoom)	52名	2月8日 3月6日	練馬区石神井地域包括支援センター	16名 4名
24	足立区				11月19日	江立セントラル薬局	8名	7月14日	ギャラクシティ 3階 多目的室	61名	7月19日 10月18日	・麻生地域学習センター 第1・2号室 ・海田地域学習センター	20名 30名
25	医師区	9月~3月	薬剤師会。Zoom、MCS共有	23名	10月14日	水戸高馬在宅医療支援センター	3名	1月18日	Zoom開催	32名	9月14日 9月21日	松崎/バル かつしんファンオーニールズ	25名
26	江戸川区				12月9日	倉富臨海園島	10名						
27	西多摩				2月3日	西多摩薬剤師会管理センター	13名						
28	八王子市	2月13日	八王子薬剤師会研修センター	11名									
29	日野市	12月4日	ノムラ薬局 本部会議室	7名	10月25日	ノムラ薬局 本部会議室	12名				10月31日	高橋台地蔵会館	34名
30	多摩市	10月11日	西多摩薬剤師会 会議室	10名									
31	稲城市												
32	町田市	1月25日	ばっば町田	26名	3月9日	町田市健康福祉会館	7名	3月23日	つばさ薬局町田店	6名	3月2日	町田市立総合体育館	100名
33	府中市	11月15日	府中市市民活動センター プラッツ第二会議室 ハイブリッド方式	75名	10月26日	むさし台薬局	11名	12月8日	ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥	124名	11月25日 2月10日	府中市若菜健康センター-奥前 市民活動センタープラッツパルト ホール	65名 65名
34	調布市										12月12日	くすのきアット1号俱楽部会館	13名
35	狛江市						2月3日	狛江市防災センター4階 会議室	40名	10月21日	狛江エコマホール	97名	
36	小金井市	3月22日	小金井市薬剤師会管理センター	14名			3月27日	調布町稲荷神社 社務所	9名	3月3日	真光寺	300人	
37	国分寺市	11月4日	いずみプラザ 2F	11名	1月27日	いずみプラザ 2F	13名						
38	立川市	2月15日	たましんRISURUホール5階	27名	3月2日	北多摩薬剤師会 会議室	3名				9月30日	立川市 豊町2丁目アット1号俱楽部	26名
39	昭島市	11月6日	Web開催	20名	3月9日	北多摩薬剤師会 会議室	3名	8月~12月	Web・リアル開催	20名	11月23日	昭島市民会館	48名
40	国立市				10月21日	北多摩薬剤師会 会議室	3名	令和5年4月~ 令和6年3月	Web形式	21名	11月~12月	国立市北緑地 地 堂7号館	8名
41	東大和市	9月12日	東大和市 研修室 + Zoomオンライン	29名	10月20日	東大和病院 C3 (シーズリー)	14名	11月24日	東大和市役所&Zoomハイブリット	29名	10月16日	東大和市保健センター	28名
42	武蔵村山市	8月18日	市民総合センター会議室	25名	3月16日	北多摩薬剤師会 会議室	3名	12月6日	緑が丘地域包括支援センター	20名	11月7日	おたがいさきサロンにこっと	21名
43	武蔵野市	2月15日	ZoomによるWeb配信	60~70名				2月8日	武蔵野スイングビル10階スイカホール	50名	1月27日	中野区民センター 研修室	23名
44	三鷹市							9月27日	三鷹市公会堂	32名	7月18日	山中地区公会堂	12名
45	小平市	7月21日	Zoomウェビナー	34名				9月26日	小平市福祉会館4階	59名	3月2日	小平市東部市民センター Zoomウェビナー	57名
								12月9日	小平市福祉会館5階	83名			
								1月27日	小平市福祉会館4階	60名			
46	東村山市						7月27日	サンバルネ コンベンションホール	76名	10月22日	西武調布日自治会会館	20名	
47	西東京市												
48	清瀬市	12月6日	Zoomによるリモート開催	35名			3月9日	ZOOMによるリモート開催	25名				
49	東久留米市												

【資料4】

令和5年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会A》地区開催一覧

	共催薬剤師名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	1-1 DVD	1-2	1-3	2-1	2-2①	2-2②	2-3	演習	まとめ	開催 時間 計	研修会番号
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	9月30日	14:00~18:30	帝京平成大学 中野キャンパス	86	都薬	145	9,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2023-13-043
2	公益社団法人 東京都薬剤師会	12月3日	10:00~14:30	帝京平成大学 中野キャンパス	119	都薬	145	9,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2023-13-059
3	一般社団法人 八王子薬剤師会	11月3日	13:00~17:20	八王子薬剤師会研修センター (Web開催)	20	都薬・八薬	60	3,000	0	23	20	20	30	20	20	10	70	30	260	2023-13-050
4	一般社団法人 西武薬剤師会	7月30日	9:00~13:30	東村山市民ステーション サンパルネ	41	都薬	40	6,000	3,000	23	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2023-13-016

令和5年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会B》地区開催一覧

	共開催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	導入	講義 DVD	演習	まとめ	レポー ト作成	開催 時間 計	研修会番号
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	12月3日	15:00~19:40	帝京平成大学 中野キャンパス	108	都薬	145	9,000	3,000	10	21	229	5	15	275	2023-13-047
2	一般社団法人 八王子薬剤師会	3月20日	13:00~17:40	八王子薬剤師会研修センター	11	都薬・八薬	28	6,000	3,000	15	21	219	5	15	265	2023-13-058
3	一般社団法人 西武薬剤師会	11月4日	16:00~21:00	一般社団法人西武薬剤師会 西武地区医薬品・情報管理センター	13	都薬	24	6,000	3,000	15	21	210	5	15	285	2023-13-033

令和5年度 医薬品・情報管理センター利用実績

【資料5】

	情報業務 (件数)	備蓄医薬品 品目数	利用薬局延数 年累計	利用薬局実数 年累計	取扱品目数 年累計
1 豊島区	実施 (311)	1,818	4,242	901	23,088
2 大田区	実施				
3 立川地区	実施				
4 江戸川区	実施				
5 荒川区	実施				
6 武蔵野	実施 (252)	1,523	8,091	494	19,925
7 杉並区	実施 (1,410)	1,371	11,779	1,461	34,863
8 練馬区	実施 (80)	1,215	10,101	1,686	30,175
9 日野	実施				
10 世田谷区	実施	4,219	19,549	2,002	129,328
11 中野区	実施	610	872	284	1,976
12 北区	実施	1,001	2,623	681	6,650
13 三鷹地区	実施 (49)	2,297	13,627	644	24,010
14 目黒区	実施	1,471	5,359	554	11,424
15 港区	実施				
16 品川区	実施	438	1,741	397	5,020
17 町田地区	実施				
18 千代田区	実施				
19 文京区	実施				
20 板橋区	実施 (360)	1,598	15,531	1,349	44,633
21 八王子	実施				
22 江東区	実施 (182)				
23 渋谷区	実施				
24 台東区	実施				
25 葛飾区	実施				
26 西武地区	実施				
27 墨田区	実施	268	621	190	969
28 新宿区	実施	755	905	267	2,141
29 中央区	実施				
30 足立区	実施 (1,281)	1,778	889	259	1,012
31 京王地区	実施				
32 西多摩	実施				
33 多摩中央	実施				
合計		20,362	95,930	11,169	335,214

令和4年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査
 (照度検査・キシレン検査)
 (実施期間：令和4年12月6日～令和5年1月23日)

【照度検査】

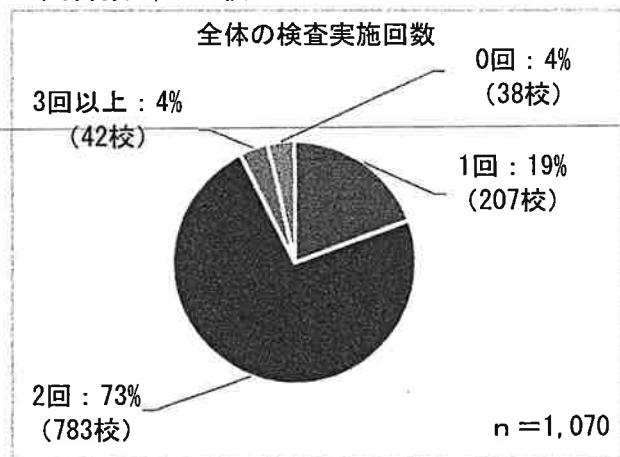
*学校種別回答数

	学校種別	回答数		学校種別	回答数
1	認定こども園	12	7	国立	0
2	公立幼稚園	40	8	私立	7
3	公立小	634	9	義務教育学校	3
4	公立中	285	10	公立小中一貫校	2
5	都立高	67	11	都立中等教育学校	0
6	特別支援学校	20		合計(回答数)*	1,070

※54地区中48地区より1,070校分の回答

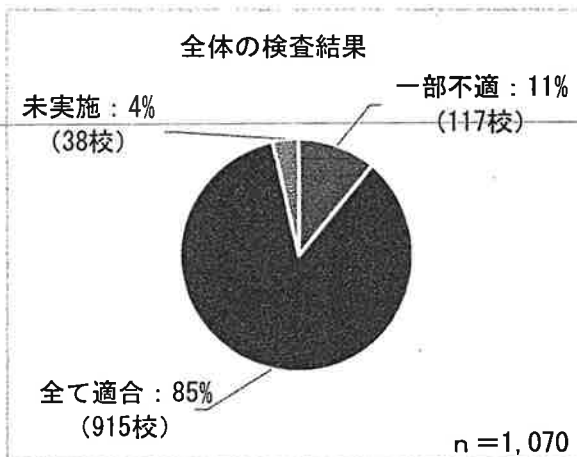
*照度検査実施回数

回答数 1,070 校



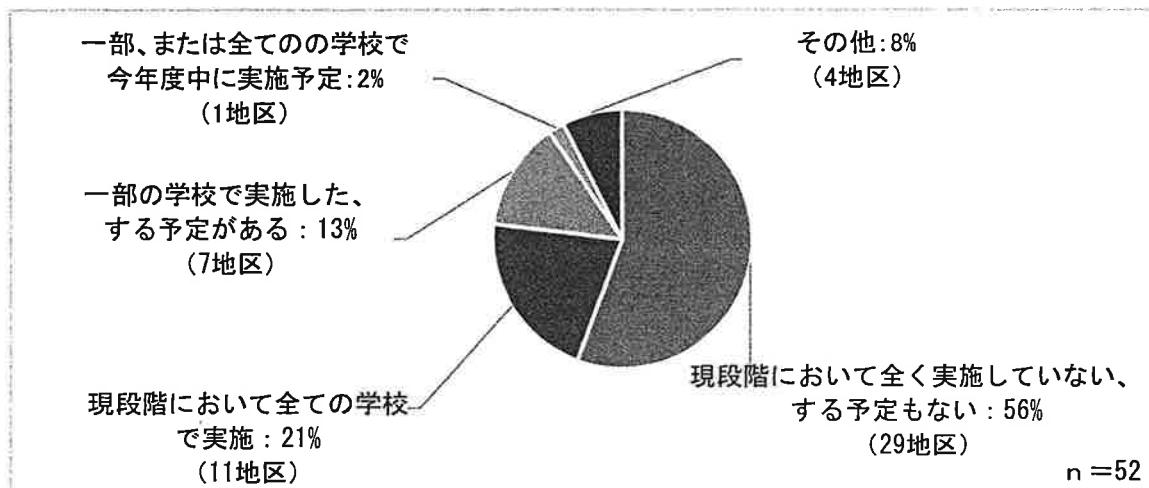
*照度検査結果

回答数 1,070 校



【キシレン検査】

*令和4年度学校保健安全法に基づく「学校環境衛生基準」の改正施行後のキシレン検査実施状況
 回答：52地区



【資料7】

令和5年度 処方箋統計
－社保＋国保(東京都)－

年 月	請求件数		処方せん枚数		調剤報酬点数		請求薬局数	
	件 数	対前年同月比(%)	枚 数	対前年同月比(%)	点 数(千点)	対前年同月比(%)	薬局数	対前年同月比(%)
令和5年4月	6,739,181	104.7	7,962,560	104.0	6,947,446,391	102.5	6,865	101.2
5月	6,911,625	111.9	8,223,882	113.4	6,889,400,322	109.8	6,857	100.8
6月	7,199,274	113.0	8,619,805	113.8	7,174,528,975	109.0	6,874	100.9
7月	7,227,156	107.8	8,623,448	108.0	7,369,458,542	109.9	6,871	100.7
8月	6,773,640	104.6	7,984,105	104.1	7,302,848,581	109.2	6,871	100.8
9月	7,002,850	110.4	8,266,279	109.8	7,383,587,231	110.4	6,882	100.8
10月	7,275,209	112.0	8,663,014	112.0	7,387,035,315	109.3	6,901	101.2
11月	7,069,067	108.3	8,349,415	107.7	7,133,388,553	104.7	6,897	100.9
12月	7,692,909	110.2	9,131,719	110.3	8,027,024,848	106.2	6,890	100.8
6年1月	7,107,774	111.0	8,213,010	111.0	7,292,924,353	108.5	6,905	101.1
2月								
3月								

基金統計月報(社会保険診療報酬支払基金)・診療報酬審査支払業務関係資料(東京都国民健康保険団体連合会)をもとに東京都薬剤師会作成。

処方箋受取率(%) (令和2年10月～令和5年10月調剤分)

—東京都国民健康保険月例報告—公営国保分—

東京都薬剤師会調べ

	R2年10月	R3年10月	R4年10月	R5年10月		R2年10月	R3年10月	R4年10月	R5年10月
都 合 計	77.4	77.6	77.9	80.9					
23区計	76.0	76.3	76.7	80.7	多摩地区計	80.2	80.4	80.5	83.1
千代田区	70.2	69.8	73.8	77.6	八王子市	80.8	82.7	82.9	84.8
中央区	75.6	75.7	76.9	80.4	立 川 市	80.4	79.9	80.0	82.1
港 区	65.2	66.3	67.0	71.8	武蔵野市	76.8	74.2	76.0	80.1
新宿区	73.0	72.3	73.7	78.3	三 鷹 市	81.6	81.4	81.3	84.1
文京区	75.6	76.9	76.2	82.4	青 梅 市	78.8	78.1	77.7	81.6
台東区	81.9	82.1	83.5	87.0	府 中 市	82.2	82.5	81.7	86.1
墨 田 区	71.3	72.2	71.8	76.5	昭 島 市	79.8	76.2	80.3	81.7
江 東 区	78.2	78.3	77.7	82.2	調 布 市	78.8	80.1	79.1	82.5
品 川 区	79.6	79.0	80.0	81.9	町 田 市	77.2	77.0	76.3	79.9
目 黒 区	73.8	75.1	74.8	77.4	福 生 市	82.8	83.5	84.0	87.2
大 田 区	79.0	78.4	77.8	82.2	羽 村 市	80.9	78.5	81.2	80.2
世田谷区	73.4	73.8	74.8	77.6	西多摩郡	79.5	79.5	80.6	79.3
澁谷区	68.6	68.7	71.4	73.2	あきる野市	85.7	86.4	84.9	86.9
中野区	78.5	79.0	79.1	83.7	日 野 市	81.8	80.8	81.6	83.2
杉並区	75.9	75.6	75.8	78.5	多 摩 市	77.6	80.0	79.5	82.6
豊 島 区	73.1	73.3	74.9	77.9	稲 城 市	80.5	78.9	79.6	81.8
北 区	75.4	76.3	76.6	79.6	国 立 市	77.9	79.9	78.2	79.3
荒川区	72.3	73.1	73.2	76.8	狛 江 市	77.2	76.5	78.4	80.6
板橋区	79.3	78.4	79.6	82.5	小 金 井 市	74.3	72.5	74.8	77.5
練馬区	79.2	80.5	79.5	82.8	国分寺市	78.9	78.3	77.9	81.4
足立区	79.2	79.5	79.7	81.6	武蔵村山市	83.5	85.3	82.6	84.8
葛飾区	77.9	77.9	78.4	80.7	東大和市	82.6	84.9	84.5	84.6
江戸川区	73.1	73.8	75.2	78.5	東村山市	86.0	84.7	84.4	86.9
					清 瀬 市	80.9	80.1	81.2	84.7
					東久留米市	87.6	88.0	88.2	88.9
					西東京市	80.6	81.2	80.5	84.3
					小 平 市	78.6	80.8	80.1	83.1
					島 しょ	80.8	82.5	78.1	80.5

受取率：東京都薬剤師会＝処方せん枚数÷(医科外来診療実日数×0.68＋歯科診療実日数×0.11)×100

(注)東京都薬剤師会は投薬率(上記0.68又は0.11)を固定しているのに対し、日本薬剤師会は直近4年間の
平均値(23年度は医科を0.67、歯科を0.105)を採用(日薬方式は受取率は若干高くなる)。